

英検

英語情報

2018
夏号
SUMMER

小・中・高・大を連携し、すべての英語教育の"今"を知る。

CLASS REPORT

熊本県立熊本西高等学校

北海道 標茶町立標茶中学校

北海道 札幌市立大倉山小学校

明日から使える! 英語で授業 7つの鉄則

茨城県立竹園高等学校

高大接続改革ニュース

大学入試で活用される従来の英検と新方式の英検について

EVENT REPORT

英語教育セミナー in 東京2018

上智大学 言語教育研究センター 副センター長 藤田保教授

どう変わる? 小学校英語 新学習指導要領がめざす教育



小・中・高・大の英語教育の“今”を 『英語情報』がお伝えします。

新学習指導要領の全面実施に向けて、
これまで以上に、児童生徒主体の言語活動を中心とした授業が求められ、
小・中・高・大をつないだ英語教育改革が進行しています。
『英語情報』では、国の動向から小・中・高の授業改善の取り組み、
大学の入試改革やグローバル化まで、英語教育の最新事情をお届けします。
明日からの授業づくりや指導にどうぞお役立てください。

Information

「英語で授業ができるか不安」「言語活動の具体例が知りたい」
そんな先生方のために

『英語情報 AR』アプリで 誌面で紹介した授業の 動画を視聴できます。



NEWS 再生期限切れになった過去の動画も見られるようになりました！

STEP 1 アプリをダウンロードします。(無料) (iOS/Android 対応)

スマートフォンかタブレットを用意して、

 Download on the App Store または  Google play から「**英語情報 AR**」と検索し、ダウンロードします。

STEP 2 アプリを起動し、画像をスキャンします。



本誌記事中の **AR** マークの付いた画像が **枠内に収まるようにスキャン** します。

STEP 3 動画が再生されます。

「スキャン完了」と表示されると、動画が始まります。

一度スキャンした動画は「履歴」をタップすれば、いつでも動画をご覧いただけます。

※ iPhone/iPad → iOS 7.0 以上、
Android → ver. 4.0 以上。

Android 版は一部対応していない端末がございます。
インストール画面の動作確認端末をご確認ください。

※ カメラのピントが合わなかったり、光が反射したりすると、読み込みができない場合があります。
※ 読み込まない時は、カメラ位置を少し上下させて読み込み距離を調整してください。
※ 読み取りに時間がかかる場合はアプリを再起動し、再スキャンをしてください。
※ 動画の再生にはネットワーク環境が必要です。Wi-Fi、または LTE 環境を推奨しています。

英語情報 2018 夏号 CONTENTS



10



12



14



24

02 最新情報

02 NEWS & TOPICS

04 特集

04 「授業改善を考える」

どう変わる？ 小学校英語 新学習指導要領がめざす教育

上智大学 言語教育研究センター 副センター長 藤田 保

CLASS REPORT

AR 10 (高等学校編)

「言語活動は子供同士をつなぐ」と信じて
生徒による言語活動中心の授業を実践

熊本県立熊本西高等学校 教諭 川元 隆一

AR 12 (中学校編)

自分の考えや気持ちを
互いに伝え合える生徒が育つ授業

北海道 標茶町立標茶中学校 教諭 皆川 敬太

AR 14 (小学校編)

知的好奇心を高め、思考を促し
学びへの意欲が生まれる授業づくり

北海道 札幌市立大倉山小学校 教諭 嘉多山 葉子

16 高大接続改革を見据えて

16 (高大接続改革ニュース)

大学入試で活用される
従来の英検®と新方式の英検について

20 授業改善

20 (連載)【第2回】

中学校・高等学校の
授業改善と評価のあり方

明海大学 教職課程 准教授 百瀬 美帆

22 (連載)【第2回】

小学校外国語活動・外国語科の
授業で使える「評価」のためのアイデア

愛知県立大学 外国語学部 准教授 池田 周

AR 24 (連載)【第16回】安河内 哲也先生が聞く
明日から使える！英語で授業 7つの鉄則

茨城県立竹園高等学校 教諭 植木 明美

28 (リレー連載) 新学習指導要領に向けて
(高等学校編)【第2回】
一生現役のActive Learnerが育つ授業づくり

石川県立小松高等学校 教諭 福岡 輝樹

(中学校編)【第2回】

キーワードは「つながり」と「深い学び」

岡山県 倉敷市立真備中学校 教諭 黒明 堅一郎

(小学校編)【第2回】

「自然な」「自然に」「自然と」を意識した
授業づくり

鹿児島県 十島村立恵石島小・中学校 教諭 森木 かずえ

34 指導のヒント

34 (連載)【第2回】

英検 2 級・準 2 級・3 級

ライティングテストを活用した
発信力の育成

Write more. Write well. Write it right!

清泉女子大学 文学部 英語英文学科 教授 大井 恭子

36 Pick Up! 英語教育

36 安河内哲也先生 xTEAP で合格を手にした大学生座談会
外部検定利用入試は
受験生のチャンスを広げる入試方式

38 (EVENT REPORT)
「英語教育セミナー in 東京 2018」
小学校で英語教育に携わる先生を対象に初開催

42 (EVENT REPORT)
平成 29 年度 実用英語技能検定
成績優秀者・優秀団体表彰式を開催

44 (特別記事)
全英連滋賀大会に向けて
大会実行委員会 × 記念講演者 座談会

AR 48 (わが町の英語教育事情) 北海道
「第6回全道高等学校
英語プレゼンテーションコンテスト」

52 52 英語情報 Reader's Voice

54 『英語情報』オススメ本

News & Topics

英語学習指導などに役立つ最新情報をお届けします

NEWS

英検[®]テストファミリー(英検、英検 IBA、英検 Jr.) 2017年度 総志願者数は366万146人！

2017年度の英検テストファミリー(英検、英検 IBA、英検 Jr.) 総志願者数は、前年度より26万6,626人増加し、366万146人に達しました^{*}。小学校以下、中学・高等学校(高専含む)、大学(短大・専修学校含む)、その他のいずれの属性においても、志願者数の増加がみられます。2020年度からの新学習指導要領の実施や大学入試改革を見据え、今後は、

児童生徒の受験がさらに増加することが見込まれております。日本英語検定協会(英検協会)は、公益財団法人として、英語学習者や指導者の皆様を支援すべく、英語教育や入試に関する最新の情報をご提供するとともに、英検をはじめとする各種資格・検定試験を円滑に運営してまいります。

【2017年度 英検テストファミリー受験状況】

	小学校以下	中学・高等学校 (高専含む)	大学 (短大・専修学校含む)	その他	合計
志願者数 (対前年比)	401,787 (108%)	2,803,213 (108%)	76,331 (111%)	378,815 (109%)	3,660,146 (108%)

※2015年4月からの英検テストブランドの統一にあたり、英検、英検 IBA、英検 Jr. の各テストの志願者数を「英検テストファミリー」としてまとめて集計しております。
各テストの志願者数は、個別に公表しておりません。

INFORMATION

従来の英検と新方式の英検を知ろう！ ～入試に向けた学習プランとは～

2018年3月、独立行政法人大学入試センターより「大学入学共通テスト」における「大学入試英語成績提供システム」への参加要件を満たしている資格・検定試験が発表されました。英検協会が実施運営している資格・検定試験では、英検、TEAP、TEAP CBT、IELTS(アカデミック・モジュール：ブリティッシュ・カウンシルと共同運営)が認定されています。この発表を受け、現在、英検協会にはさまざまなお問い合わせをいただいています。そこで、従来の英検と新方式の英検はどのような違いがあるのか、受験準備をどのようにしたらよいのか、といった皆様からのお問い合わせにお応えし、大学入試での英検の活用方法をご紹介しますウェブサイトを開示しました。ウェブサイトをご覧のうえ、受験や指導のご参考にしていただければと思います。なお、本誌P.16～19でも解説記事を掲載しておりますので、ご覧ください。

<http://www.eiken.or.jp/eiken2020/>



NEWS

2018年8月より毎月実施！ 「英検 CBT」のウェブサイトを開示

4技能を1日で測定し、コンピュータによる受験を可能にした英検 CBTが、2018年8月より毎月実施されます。実施級は2級・準2級・3級で、同じ検定回には最大3つの級を受験いただけます。英検 CBTの問題構成は従来の英検と同じで、英検 CSEスコアに基づき、級の可否を判定しますので、英検と同資格としてご利用いただけます。

英検協会では、英検 CBTの実施に伴い、試験の詳細について詳しく解説したウェブサイトを開示しました。受験のお申し込みや試験結果もウェブサイト上からご確認ください。

なお、Speaking、Reading、Writing、Listeningの各テストのコンピュータでの操作方法は、動画でも解説しています。受験前にぜひご確認ください。

<http://www.eiken.or.jp/cbt/>



INFORMATION

研修参加者有志による 連絡協議会が発足！

このたび、「全英連・英検共催 英語教員国内研修」や「英検 英語教員海外研修」に参加された先生方の有志により、連絡協議会が発足いたしました。この会は、先生同士の広域ネットワークの構築、授業改善に向けた模擬授業や実践報告などの研修機会を設けることを目的とするものです。研修参加者の有志によって発足した会ですが、「もっと勉強したい!」「ほかの地域の先生とつながりたい!」という先生方にも、一緒に盛り上げていただきたく考えております。今後の連絡協議会の開催やご参加方法等については、詳細が決まり次第、『英語情報』等にてお知らせいたします。

NEWS

TEAP 試験当日のスケジュールを 2018年度より変更しました

4技能型アカデミック英語能力判定試験「TEAP」の2018年度第1回試験は、7月22日(日)となります。今年度より、試験当日のスケジュールを以下のように変更しますので、ご確認のうえ、お間違いのないようお願いいたします。

【2018年度 試験当日のスケジュール】

※()内は2017年度のスケジュールです。

集合時間	9:10	(9:30)
リーディングテスト 開始	9:40	(10:00)
リスニングテスト 開始	10:52	(11:12)
午後 集合時間 ※4技能申し込みの場合	12:20	(13:00)
ライティングテスト 開始	12:50	(13:30)
スピーキングテスト 開始	14:20	(15:00)
スピーキングテスト 終了予定	17:15	(17:05)

詳細については、TEAPウェブサイトにてご確認ください、ご不明点などがございましたら、英検サービスセンターTEAP運営事務局(TEL: 03-3266-6556 平日 9:30~17:00)までご連絡ください。

NEWS

国立大学協会 「大学入学共通テスト」の枠組みにおける 英語認定試験活用の参考例を示す

一般社団法人 国立大学協会(国大協)は6月12日、2021年度入試における「大学入学共通テスト」の枠組みにおいて、英語認定試験の各大学の活用の参考例を示しました。活用例は、(1)出願資格とする場合、(2)加点方式とする場合、(3)出願資格と加点方式を併用する場合、に分かれています。

例えば(1)の場合は、CEFR A2以上を受験資格とすること、(2)の場合は、CEFR対照表に基づく水準ごとに加点の点数を定め、英語全体の満点に占める割合を2割以上とする、(3)の場合は、(1)と(2)の場合の留意点を踏まえて各大学・学部等が主体的に定める、としました。国大協では、これらはあくまでも「参考例」であり、最終的には各大学・学部等が方針に基づいて判断すべき、としています。

NEWS

文部科学省 「平成29年度英語教育実施状況調査」の 結果を公表

文部科学省は、公立小・中・高等学校における「平成29年度英語教育実施状況調査」の結果を今年4月、公表しました。「英語担当教師の英語力」は、中学校でCEFR B2レベル以上のスコア等取得者は33.6%、高等学校で65.4%と、前年より上昇しています。「生徒の英語力」は、中学校3年生で英検3級以上(CEFR A1レベル以上)を取得している生徒は22.0%、資格・検定試験未受験でも英検3級以上相当の英語力を有する生徒は18.7%で、両者を合わせると40.7%でした。高校3年生で英検準2級以上(CEFR A2レベル以上)を取得している生徒は15.0%、資格・検定試験未受験でも英検準2級以上相当の英語力を有する生徒は24.3%で、両者を合わせると39.3%でした。中学校・高等学校いずれも上昇傾向にあるものの、「第2期教育振興基本計画」の目標値(中学卒業段階で英検3級程度以上50%、高等学校卒業段階で英検準2級程度以上50%)には届かない結果となりました。



教育関連書籍2冊を 各1名様にプレゼント！

教育に関する書籍2冊を、抽選で各1名様に差し上げます。本誌に関するアンケートにお答えいただき、ご希望の書籍番号をご明記のうえ、『英語情報』編集部までご応募ください。詳細はP.54をご参照ください。



どう変わる？ 小学校英語

新学習指導要領がめざす教育

2020年度から新学習指導要領が実施され、小学校3、4年生での外国語活動、5、6年生での外国語はどのような指導が求められているのか。新学習指導要領がめざす方向性を改めて理解し、小学校では移行期間に何をすべきなのかを、上智大学言語教育研究センター副センター長の藤田保教授と考える。

なぜ、
学力の3要素
が求められたのか？

社会構造の変化により 求められる資質・能力も変化

世の中のしくみが20世紀とは大きく変化した現在、社会で求められる資質・能力も変わってきました。20世紀の大量生産の時代には、指示されたことを正確に、迅速にこなしていくことが求められ、そのためには学校教育においても、先生の話をきちんと聞いて理解でき、間違えずに素早く行動できる児童生徒が優秀とみなされ、社会へ出て行きました。しかし、近年ではコンピュータやAI（人工知能）の発展とともに、そうした仕事はロボットがする方が効率が良く、コストを抑えられるようになりました。このような時代に、私たち人間に求められるのは、ロボットに何をさせるかを考える力だと言えます。つまり、学校教育においては、すでにもっている知識を活用して、自ら考え、新しい価値を生み出していくことのできる人を育てていく必要があるのです。

協働して新しい価値を生むには コミュニケーションが不可欠

今後ますます、人工知能が発達していくと、2045年には人口知能が人間の知性を超え、人間の生活に大きな変化が起こるのではないかとされています。子供たちがこれからそのような時代を生き抜いていくためには、いろいろな人々の知恵を集めて新しいことを考え、よりよいものを生み出すことが必要でしょう。そのような場面では、コミュニケーション能力が不可欠です。英語であれ、日本語であれ、自分で考えたことを表現し、他者と協働していく力が必要とされます。これこそが、新学習指導要領が求めている「学力の3要素」なのです。

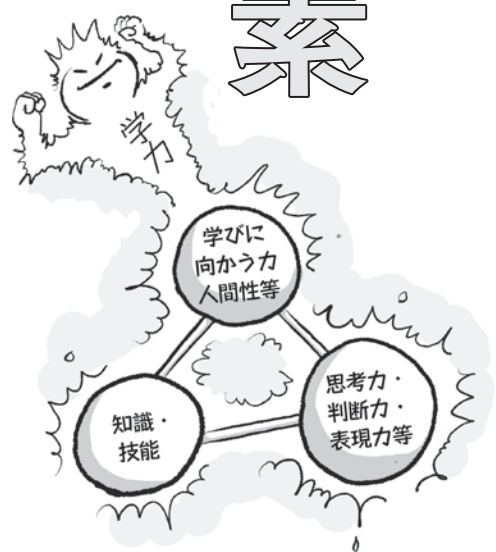
経済市場の変化とともに 人材採用と育成のあり方も変化

私たちが生きてきた時代と、子供たちがこれから生きていく時代は違います。これまでのように、国内だけ、会社内だけに目を向けていけばよいではありません。かつて大手企業では、採用した社員に対し、ある程度の時間と費用をかけて語学研修を行ってから海外へ営業として派遣していましたが、現在では企業にそのような時間的、経済的な余裕はないでしょう。また、市場は欧米からアジアへと広がっているため、日本の社員にタイやベトナムなどの現地の言語を習得させるより、日本に留学してきた学生を採用して、現地の言語はもちろん、ものの考え方や生活風習も理解している彼らを派遣して営業させる方が、はるかに成果を上げることができるのではないのでしょうか。

共通言語としての英語 その重要性が高まっている

このように、現在では日本企業であっても多国籍化が進み、そのなかでの共通言語として、英語を使う必要があります。だからこそ、学校教育においても、コミュニケーションを重視した英語教育が今後ますます求められ、自分の考えをもち、自分の意見を述べることのできる人物を育てていく必要があるのです。コミュニケーション能力を伸ばし、思考力・判断力・表現力等を育んでいくなかで、英語を使うということです。

これからの時代を
生き抜くために
必要な力とは？



音声と文字による コミュニケーション能力が必要

コミュニケーション能力といっても、話す力だけに着目しているわけではありません。むしろ私たちは、メールやSNSなどを利用し、文字を介したコミュニケーションをしていませんか？これから必要なコミュニケーション能力とは、文字も音声も含めたコミュニケーションを考えるべきです。私たちは普段から、単に読むだけ、書くだけというように、1つの技能だけではなく、読んで話す、話して書くなどいくつかの技能を統合して使って、考えや気持ちを伝え合っています。そのようなコミュニケーションの素地を、小学校の英語を起点に養っているのです。

自分の考えや気持ちを伝え合おうとする 意欲を早くから養っていく

これまでの日本の英語教育では、単語や文法の知識を習得することばかりに重点が置かれ、それは一定の効果を上げてきました。しかし、実際に習得した知識をいつ、どのような場面で使うのかといった観点が欠けていました。これでは、英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする気持ちは芽生えません。まずは話してみる、相手の話に耳を傾けてみる。その気持ちがなければ、せっかく知識を習得しても、それは宝の持ち腐れです。今回の学習指導要領では、積極的に自分の考えや気持ちを伝え合おうとする意欲を養うことを大切にしています。そのためには、英語に対する抵抗感が少ない、年齢の低いうちがより効果的であるとして、小学校3、4年生で外国語活動を行うことになりました。



外国語活動を
3、4年生で
行う理由とは？

新学習指導要領が 大切にしていることは？

実際に英語を使わなければ 身に付かない

新学習指導要領で強調しているのは、「英語を使う場面・目的」を大切にすることです。子供たちには、どのような場面で、どのような目的のもとで使う表現であるかを、実際に先生や友達同士でのやり取りを通じて体験し、理解させます。言葉は、使わなければ絶対に身に付きません。日本にいる限り、子供たちは教室を一步出れば、英語を使わなくても困らない環境にいますから、せめて授業中には英語を使う場面がたくさんあってほしいと思います。

何度も繰り返し使って 慣れ親しむことが大切

これは小学校だけに言えることではなく、中学校や高等学校においても同じことが言えます。中学校や高等学校で「授業は英語で行うことを基本とする」と示されているのは、決して、先生が流暢に英語を話したり、文法の説明をしたりすればいいのではなく、子供たちが英語を使ってコミュニケーションをする場を教室につくるということです。そして、さまざまな単語や表現を、何度も繰り返し使って十分に慣れ親しんでから、文字を扱ってほしいと思います。

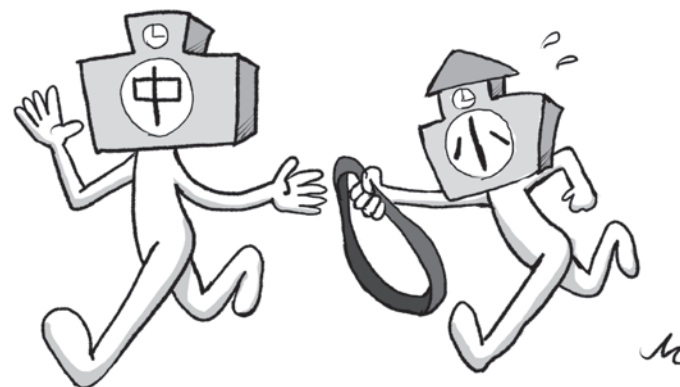
5、6年生の外国語は 橋渡しの役割

文字指導は音声での 慣れ親しみが重要

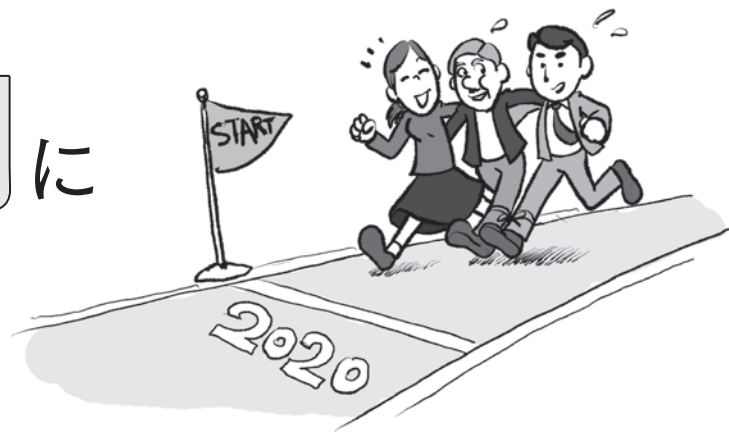
3、4年生の外国語活動は音声中心であり、5、6年生の外国語では音声と文字を扱います。文字を扱う際には、3、4年生で十分に音声で慣れ親しみ、教室の黒板や壁などの掲示物で目にしたことのある表現を読んだり、書いたりすることになります。5、6年生でもあくまで音声中心でありつつ、文字に親しむということに留意する必要があります。まったく何も見ないで文字を書くのではなく、なぞり書きをしたり、写して書いたりすることによってよいのです。

小学校の英語を 中学校・高等学校へつなぐ

5、6年生の外国語は、あくまで、3、4年生の外国語活動と中学校の英語の橋渡しの役割を担っています。これまで、小学校では音声中心で活動してきた子供たちが、中学校で文字や文法と出合い、戸惑ってしまうことが多くありました。今後は5、6年生で外国語を教科として扱うことで、子供たちが戸惑うことがないようにしたいものです。扱う言語材料は、これまでの中学校1年生で扱っていたようなものも含まれますが、教え方はむしろ、これまでの外国語活動と同様に、子供たちの考えや気持ちを引き出すようになってほしいですし、それを中学校・高等学校へとつないでいってほしいと思います。



移行期間に すべきことは？



できるだけ多くの先生が慣れておく

今年度から、移行期間が始まりました。多くの小学校では3、4年生では年間15時間、5、6年生は年間50時間を扱うことになりませんが、2020年度の全面実施になってから取り組みばよいのではなく、今のうちから、できるだけ多くの先生方が外国語活動や外国語の授業を経験して、慣れておくことが大切だと思います。何事も新しいことに取り組むには、1年目は手探りで、2年目に少し慣れて、3年目でようやくある程度の自信をもつことができるものです。そのように考えれば、2年間の移行期間があることにも意味があり、大切な期間だと思います。新教材については、補助教材ですから全てを扱う必要はありません。学校や子供たちの実態に合わせて取捨選択して扱えばよいでしょう。

過去形も三人称も難しくない

過去形の扱いも、例えばこれまで中学校で教えてきた文法指導のように、goの過去形はwent、eatはateのように教えるのではありません。子供たちの生活のなかで、夏休みに町内のお祭りに行った、海へ行ったなどと振り返って話すときに、“I went to ～”の表現を使えばよいのです。また、友達や家族のことを伝えるために三人称が必要であり、助動詞のcanを使うことで、三単現のsを付けなくても表現することができるのです。

授業が学級経営にもつながる

授業をつくるうえでは、日頃から他教科の指導で工夫しているようなことが、外国語活動や外国語の授業にも必ず生きてくるはずです。英語専科教員や外部人材の活用などもありますが、そうした体制整備は、各自治体によって違います。今、国がめざしているのは、学級担任が授業を行うことです。学級担任が外国語活動や外国語を指導することは、学級経営にも効果がありますし、教科横断型で授業を組み立てやすいという良さもあります。

評価は音楽や体育の実技評価と同じ

また、「評価をどのようにしたらよいのか、分からない」という声をよく耳にします。「パフォーマンス評価」と聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、実はこれまで小学校の先生方は、音楽でリコーダーのテストをしたり、体育で実技テストをしたりして評価をしています。それと同じことなのです。つまり、子供たちが英語をどれだけ使うことができるようになったのかを、実際に子供たちに英語を使って活動させて評価をするということです。そのためには、学校独自のCAN-DOリストを作りましょう。目標に照らし合わせて評価をすることができるようになります。

学級担任が 授業を行う 意味は？

英語を気負わずに使う人のお手本に

今、小学校の先生方は、英語を教えなければならない、英語が教科になり、文字指導や評価をしなければならない…と不安を抱えていらっしゃるかもしれません。しかし、構えなくてもよいのです。むしろ、子供たちと一緒に楽しむぐらいの気持ちで臨めばよいのです。先生が英語のお手本である必要はありません。子供たちの前では、気負わずに英語を使う人のお手本であってほしいと思います。普段は日本語で授業をしたり生活をしたりしていても、英語の時間には英語を使って話している、そして次の時間はまた日本語で話しているというように、必要に応じて英語を使うことができるという姿を見せてほしいのです。それが何よりのロールモデルになるものです。

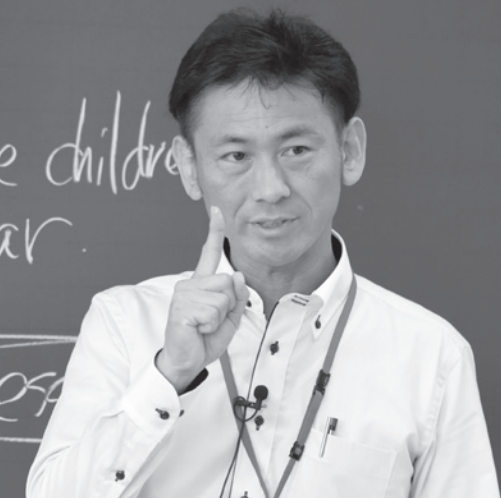
臆することなく英語を使える 子供を育てるために

先生が積極的に英語を使ってコミュニケーションをしていれば、子供たちは先生のように英語を話せる人になりたいと思うでしょう。そのような姿を見せていくことが、将来、子供たちが海外に出た時や、国内で外国の人々と接するときに、臆することなく英語を使ってコミュニケーションをしようとする姿勢につながっていくのです。



藤田 保（ふじた・たもつ）

上智大学言語教育研究センター副センター長。専門は応用言語学（バイリンガリズム）と外国語教育。NPO小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）専務理事。公益財団法人日本英語検定協会理事。『英語教師のためのワークブック』『先生のための英語練習ブック』（共にアルク）。『21年度から取り組む小学校英語 全面実施までにこれだけは』（教育開発研究所／共著）。『コミュニケーション型な英語教育を考える』（アルク／共著）など、著書多数。



「言語活動は子供同士をつなぐ」と信じて 生徒による言語活動中心の授業を実践

英語教育推進リーダーであり、熊本県のスーパーティーチャーとして、県内の高校教員の指導力向上のために研修等を行う熊本県立熊本西高等学校の川元隆一先生。かつては文法訳読式の受験英語を教えてきたが、小学校の特別活動で子供たちが意見を主張し合う姿を見て「言語活動は子供同士をつなぐ」と痛感し、生徒の言語活動中心の授業へと転換した。安心できる学習集団をつくり、生徒が自分の考えを英語で表現し、英語を好きになる授業づくりの秘訣取材した。

【本時の目標】
やなせたかし氏は子供たちのどのような力を信じたのかを読み取る

【教材名】
Lesson 2 “Messages from Yanase Takashi” Section 1
『MY WAY English Communication I』（三省堂）より
全8時間中2時間目

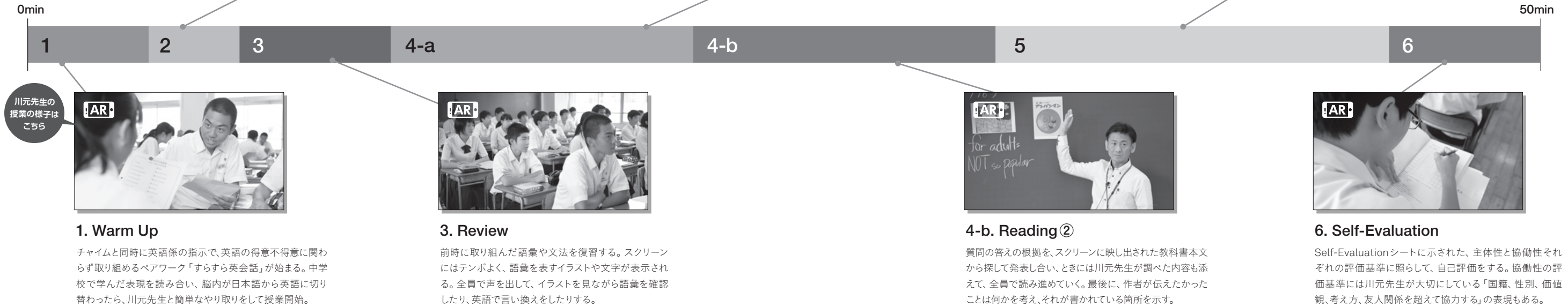
2. Small Debate
この日のトピックは「日本映画と洋画のどちらが好きか」。立場に応じた理由を示してペアで意見を述べ合う。立場を変えて、別の生徒とペアを組んで同様に活動したのち、一人の生徒がクラス全体に向けて自分の意見を主張する。



4-a. Reading ①
予習してきたYes/No Questionの答えをペアで確認する。続いて、グループワークで使用するフレーズを練習してからグループ活動に入る。リーダーの進行で各自が考えてきた答えについて発表し、正否をメンバーと考える。



5. Retelling
教科書本文を音読して内容や表現を確認したのち、ペアワークによるQ&A活動に移る。ペアで異なるシートを持って活動する。Readingで理解した本文内容についての6つの質問に対し、自分の言葉でRetellingをして答える。



1. Warm Up
チャイムと同時に英語系の指示で、英語の得意不得意に関わらず取り組めるペアワーク「すらすら英会話」が始まる。中学校で学んだ表現を読み合い、脳内が日本語から英語に切り替わったら、川元先生と簡単なやり取りをして授業開始。

3. Review
前時に取り組んだ語彙や文法を復習する。スクリーンにはテンポよく、語彙を表すイラストや文字が表示される。全員で声を出して、イラストを見ながら語彙を確認したり、英語で言い換えをしたりする。

4-b. Reading ②
質問の答えの根拠を、スクリーンに映し出された教科書本文から探して発表し合い、ときには川元先生が調べた内容も添えて、全員で読み進めていく。最後に、作者が伝えたかったことは何かを考え、それが書かれている箇所を示す。

6. Self-Evaluation
Self-Evaluationシートに示された、主体性と協働性それぞれの評価基準に照らして、自己評価をする。協働性の評価基準には川元先生が大切にしている「国籍、性別、価値観、考え方、友人関係を超えて協力する」の表現もある。

英語嫌いを減らし、英語で表現できるように
取材に訪れたのは5月下旬。入学から2カ月にも満たないながら、「安心できる学習集団」になりつつあることが生徒の様子から見て取れる。生徒たちはペアやグループで協力しながら、笑顔で自分の考えを述べ、相手の考えを聞こうと積極的に取り組んでいた。川元先生が生徒の言語活動中心の授業スタイルに転換したのは、6年ほど前のこと。当時、1年生に「英語は好きですか？」とアンケートを取ると、「嫌い」「大嫌い」が55%を占めた。そこで、「言語活動を通じて生徒同士がつながり、望ましい学習集団となれば、より高度な

チャレンジができるようになる」との仮説を立て、「英語が嫌いな生徒の割合が多い現状を改善し、英語力向上に努める」「生徒が自分の考えを英語で表現できるようになる」という目標のもと、言語活動中心の授業を実践しようと考えた。その後、英語教育推進リーダーの中央研修を受ける機会にも恵まれ、「英語はコミュニケーションのツール」との考えに基づいて、授業改善に取り組んできたそうだ。

言語活動中心の授業で英語を好きになった
言語活動中心の授業を展開してみると、生徒たちの反応は大きく変わった。3カ月後に

再び同じアンケートを取ると、「嫌い」「大嫌い」な生徒の割合が18%にまで減少した。

授業ではペアワークを多く取り入れ、生徒の英語に対する心理的障壁を下げている。授業冒頭の「すらすら英会話」は、簡単な英語表現を読み合うだけの活動で、英語の得意不得意に関わらず取り組めるが、その際には、良い話し手、良い聞き手として英語を使うことを意識させる。Small Debateは、簡単なトピックについて、指定された立場で意見を言い、必ず理由を2つ添えることが決められている。これらの活動はペアであいさつしてから始まり、あいさつして終わる。生徒たち

は笑顔で活動に取り組み、学び合う関係が築かれていく。活動を通じて、英語に苦手意識をもつ生徒でも「できた!」という感覚を味わうことで、次への意欲が生まれる。

さらに、グループワークでは、友達の見聞にも耳を傾け、多様な考え方に触れ、学び合う姿勢が養われていく。生徒は友達の見聞を聞きながら思考を働かせ、最終的に自分の言葉で考えを表明できるようになる。こうした授業により、多くの生徒が「いつも話さない友達と話せて楽しい」と感じ、英語の授業が「好き」「大好き」という感覚が芽生えていくのだ。

「文法訳読式の授業では、学びの遅い生

徒は置いていかれ、苦しい思いをしていたと思います。言語活動中心の授業では、生徒同士で学び合い、段々と学びを深めていけるので、生徒が少しずつ自信を付けていけるでしょう」と、その言葉には実感がこもる。

国籍、性別、価値観、考え方、友人関係を
超えて協力し合える人を育てたい
「言語活動のもつ大きな力」を信じる川元先生は、生徒の主体性や協働性を大切にしていた授業を展開している。そして、言語活動を通じて、生徒の論理的思考力、判断力、表現力を高めることをめざしている。生徒たちは

授業を通して、英語を好きになり、英語で自分の考えを表現できる力を付けてきた。なかには、文化祭で英語劇を行ったり、スキットコンテストやスピーチコンテストなどに出場したり、海外ホームステイに参加したりする生徒もいる。また、4技能を身に付けることの大切さを理解し、英検に挑戦する生徒も多くなる。

「言語活動中心の授業を通じて、生徒たちには大学入試のためだけでなく、対話のための英語に触れてほしいと思っています。国籍、性別、価値観、考え方、友人関係を超えて、協力し合える人を育成することが私の願いです」と、川元先生は語った。



自分の考えや気持ちを互いに伝え合える生徒が育つ授業

国立教育政策研究所の教育課程研究指定校である北海道標茶町立標茶中学校では、「自分の考えや気持ちを互いに伝え合える生徒の育成～教科書本文や言語材料を活用した授業づくりを通して～」をテーマに、研究に取り組んでいる。同校に着任して7年目を迎え、生徒たちとの良好な親和関係を築き、教科書の題材を身近な話題に置き換えた言語活動を通じて、生徒の発話への意欲を引き出している皆川敬太先生の授業取材した。



前視学官が見る皆川先生の授業

広島県立教育センター 平木 裕 副所長（前 文部科学省 初等中等教育局 視学官、教育課程課・国際教育課 教科調査官 併任）

英語教育推進リーダーでもある皆川先生は、生徒と最高の親和関係を築いておられ、その穏やかな英語使用と周囲を包み込むような雰囲気魅力です。日本語をほとんど介在させることなく、生徒は先生の指示に素早く反応し、ちょっとした発話にもどつと笑いが起きるなど、普段から先生と生徒の間で英語によるやり取りが自然に行われていることが手に取るように分かります。笑顔と笑いが絶えない世界にぐいぐい引き込まれていきます。

グループ・ワークの場面では、ミツバチが花から花へと飛び回るかのようにあちこちの生徒の所へ歩み寄り、先生が英語で声を掛け、生徒も英語で返したり質問したりしています。何より先生自身が生徒とのコミュニケーションを楽しんでいる様子には微笑ましいものがあり、新学習指導要領が掲げる「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」をまさに地で行く授業と言ってよいでしょう。

【本時の目標】

魅力的な札幌自主研修を提案する

【教材名】

Lesson 3 "Guide Dogs" Part 1
『ONE WORLD English Course 2』
(教育出版)より
全9時間中4時間目

2. Review

前時に学んだ教科書本文の内容についての質問に対し、ペアで話し合ってから全体で発表する。生徒の言いたいことを先生がくみ取り、引き出しながら、生徒が自分の言葉で発言できるように促していく。



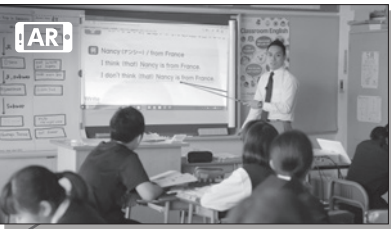
4. Task②

グループで意見を出し合い、計画を立てる。生徒が "How do you spell ...?" と先生に質問すると、皆川先生は分かりやすい表現に言い換えて示す。生徒のしたいことを尋ねては、"How about you?" と一人一人の考えを聞き出していった。



6. Speaking

教科書の "I think ..." "I don't think ..." を使った例文を声に出して読んで表現に慣れたあと、"What TV program is interesting for you?" や "Who is beautiful?" に対する自分の考えを、"I think ..." を使って発表する。



皆川先生の授業の様子は
こちら



1. Small Talk

週末の予定についてペアで話し合う。まず、皆川先生が、"I'm going to Kushiro and buy new books about table tennis." と例示した。ペアでの会話が終わると、指名された生徒が先生とやり取りをして、会話の内容を膨らませた。



3. Task①

来年に控えた札幌への修学旅行での自主研修プランを立てる。皆川先生は英語科の先生のプランを例示し、4人一組のグループでガイドブックを参考に「どこで」「何をするのか」を考え、英語で付箋紙に書いて計画表に貼るよう指示した。



5. Task③

教室内に掲示した各グループの計画表を読み、全員で一番良いプランはどれかを考える。指名された生徒は既習の can や because, We're going to ... を使って、一番良いと思うプランとその理由を発表する。



7. Writing

考えを述べるための表現の定着をはかるため、Task で取り組んだ各グループのプランについて、どのプランが一番良かったとその理由を、"I think ..." の表現を使って書く。次時では Small Talk でも "I think ..." を使ってやり取りをする予定だ。

既習事項を使って自分の言葉で表現する

「自分の考えや気持ちを伝え合える生徒の育成」をめざし、皆川先生はターゲットとする文法事項があっても、使用する言葉に縛られずに、自分が知っている単語や表現を使ってやり取りをするようにと、生徒たちに自由にコミュニケーション活動をさせる。新出表現はその場ですぐに覚えて定着するものではない。何度も繰り返し使うことで表現が定着し、自分の言葉として使えるようになるからだ。「どうしたら自分の考えや気持ちを相手に伝えられるのか」「自分の知っている表現で言い換えて伝えられるか」を大切に、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度を高めていく。

「正確さを追い求め、発話をためらう生徒もいますが、既習事項を使って表現すればよいのです。正解などありませんから、臆せずにやり取りをしてほしいと思います」と皆川先生は話す。生徒の心理的障壁を低くするため、最初は必ずペアで自分の考えや気持ちを伝え合ってから、グループで活動し、最後にクラス全体に共有する。そのなかで、できることの幅を広げ、自信をもって次に進む。このスモールステップが大事なのだという。

生徒の意識調査から見た授業改善の成果

同校は昨年度から教育課程研究指定校として、英語科教員3名で調査研究にあたって

いる。研究主題や学習到達目標、年間指導計画や毎回の授業計画の設定、評価まで、3名が協力し合う連携体制が取れている。研究主題を設定した背景には、CRT（標準学力検査）の結果から、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度は高く、場面に応じて書くなどの英作文では目標値を超えているものの、「対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える」「メールの要点を理解し、相手の質問に適切に応じる」などの設問では目標値より低いという課題が見えたことがある。そこで、教科書本文や言語材料を効果的に活用した授業づくりを通して、課題を克服し、自分の考えや気持ちを互いに伝え合うた

めの指導方法の工夫や改善を目的とした。文法事項などの言語材料は、実際のコミュニケーションのなかで活用させる。単元を通して生徒に身に付けさせる力を明確にし、CAN-DO リストも作成した。単元の終わりには振り返りを行い、学期に1回のパフォーマンステストも実施。実用英語技能検定などの外部資格・検定試験の受験結果は、生徒の英語力を把握する資料として活用した。昨年度の3年生対象の調査では、「自分の考えや気持ちを話すことが好きですか」に対して、5月の時点で肯定的な回答が63%だったのが、10月には72%へ上昇し、「自分の考えや気持ちを英語で話すことは得意ですか」に対

する肯定的な回答は、5月の31%から10月に45%へ上昇し、授業改善の成果が現れた。**相手に配慮しながら考えや気持ちを伝え合う** 標茶中学校では、授業は生徒が英語を使って考えや気持ちを伝え合う場であるとし、生徒は自ら英語を使って活動するなかで、自ら学びを深めていく。生徒たちは授業中にペアやグループでやり取りをする際、自分の考えを伝えたとに、「How about you?」と聞き手に尋ねては、相手の考えを引き出して会話を広げていた。1年生の入学段階から、相づち表現を繰り返し使っているのが、ごく自然に相手への配慮が芽生えているのだ。

皆川先生は「日々の授業を通じて、生徒たちは聞いて、理解して、考えて、返すというやり取りができるようになり、英語を使って相手とコミュニケーションを取りたいという気持ちになっています」と述べる。そして、次のようにも感じている。「日頃、授業以外の場面では、他人に優しく、衝突を恐れるあまり、自分を主張できずに苦しんでいる生徒もなかにはいます。たくさん失敗してもいい。落ち込んでもいい。そこから立ち上がるたくましさを身に付けてほしいと思います。そのためにも、自分の考えや気持ちを互いに伝え合える人に育ってほしいと願っています」。皆川先生は生徒たちの成長を見守っている。



知的好奇心を高め、思考を促し 学びへの意欲が生まれる授業づくり

札幌市立大倉山小学校は、文部科学省の「英語活動等国際理解活動推進事業拠点校」（2008年度）や、「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究校」（2009年度）、「教育課程特例校」（2014年度）といった研究指定を受けて、長年にわたり外国語活動の実践研究を積んできた。6年生を受けもち、英語教育推進リーダーでもある嘉多山葉子先生は、子供たちの思考力・判断力・表現力を育み、英語を話したい、書きたいという意欲を引き出す授業を実践している。



教科調査官が見る嘉多山先生の授業

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課・国際教育課 直山 木綿子 教科調査官

授業の様子をご覧になって、まず気付かれたことは何でしょうか。私は、授業を通して子供のつぶやきが多いことに驚きました。日本語や英語で、子供たちが先生の質問や投げ掛けにそれぞれが応じています。通常授業では、先生の発問に子供が挙手して答える形が多いですが、本実践では、挙手をして答える場面は少なく、先生が子供のつぶやきを拾い、自然なやり取りをしながら展開されています。子供たちが自分の考えや気持ちを自由に発言する雰囲気があります。そのようななかで子供たちは英語を身に付

けていっています。また、嘉多山先生が何度も“Thank you so much.” “Very good.”と言っていることも印象的です。子供が不慣れな英語を使って何とか自分の考えや気持ちを言おうとしていることへの労いと励まします。このような声掛けがあるからこそ、子供からつぶやきが出るのでしょう。昨年度まで教育課程特例校であった本校では、高学年の英語活動科で外国語科に取り組んでおり、常に子供たちに黒板に貼られた語句などを自然に読ませているのも印象的です。

【本時のめあて】

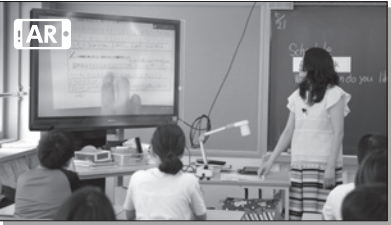
それぞれの季節でどんなことが楽しめるかを聞いたり言ったりする

【教材名】

新学習指導要領対応小学校外国語教材『We Can! 2』
Unit 2: Welcome to Japan
全8時間中1時間目

2. 前時の振り返り

前時に書いた「振り返りシート」から、自分ができたことや友達から学んだことなど、「気付き」をクラス全体で分かち合い、互いを認め合う。



4. Let's Watch and Think 1

国旗と登場人物、行事、食べ物の写真を線で結ぶ。Sophiaが話す映像を繰り返し見て、“You can ...”のフレーズからその国でできることや特徴などを聞き取る。



6. Let's Talk

“You can enjoy ...”の表現を使って、4人一組のグループで季節の行事や祭り、その季節に楽しめることなどを話し合う。お互いの考えに触れ、表現を繰り返し使って発言することで、表現に慣れ親しむ場となる。



8. 振り返り

授業で学んだことや気付いたことについて、「振り返りシート」に記入。児童が書いた“You can enjoy ... in ...”の表現を次々と電子黒板に映して、声に出して読み上げ、友達の考えを共有した。



嘉多山先生の授業の様子は
こちら



1. Small Talk

“What season do you like?”を尋ね合う。季節を表す言葉を確認してから、児童1名と嘉多山先生でやり取りをしてみせ、ペアで活動する。



3. 単元名と本時の流れ確認

この日から新しく取り組む単元名「Welcome to Japan」を示し、Welcome to はどのような時に使う言葉なのかを子供たちと一緒に考えた。その後、授業の流れを確認した。



5. Three Hint Quiz

“We have this event in Summer.” “You can enjoy watching stars.” “It's on July 7th, but in Hokkaido it's on August 7th.”のヒントから思考をめぐらせ、七夕という正解を導き出した。



7. Let's Read and Write

十分に音声で慣れ親しんでから書く活動に移る。“You can enjoy ... in ...”に、「楽しめること」と「季節」の単語を書き写して文を完成させた。

友達の良さに気付き、認め合う空気づくり

「英語活動科の良さは、子供たちがコミュニケーションを通じて友達の良いところに気付くことができることです。普段は関わりをもたない友達ともやり取りをして、意外な発見をしたり共通点を見つけたりして、それをきっかけに仲良くなれたりすることがあります」。大倉山小学校で英語活動科の授業を6年間実践してきた嘉多山先生は、実感を込めて話し始めた。同校では、「広い視野に立ち、他者と関わることで、よりよい生き方のできる子どもの育成」を研究主題に掲げ、英語活動科や道徳、総合的な学習などの授業を通じて「人との関わりによって学びを深めていくこ

と」を目標とする。嘉多山先生は英語活動科の授業では、子供同士のやり取りの時間を大切にしていると言い、実際に授業中の子供たちの様子を見ると、相手の話を一生懸命に聞いて、相いづちを打ったり、良いところを探して褒めたりしながら、コミュニケーションを楽しんでいる。また、授業の終わりに書く「振り返りシート」には、自分ができたことや気付いたことだけでなく、友達から学んだことや友達のすごいところなどを記入している子供も多い。「振り返りシート」は次の時間の冒頭で電子黒板に映し出すことで、クラス全体で共有して、自分や友達ができたことを分かち合い、お互いを認め合う空気がつくられる。

子供たちの意欲を引き出す丁寧な指導

同校は昨年度まで教育課程特例校として、年間で英語活動科の授業が1、2年生は15時間、3、4年生は35時間、5、6年生は70時間設定されていた。取材した6年生の子供たちは、すでにたくさんの語彙や表現に触れており、嘉多山先生の話す英語をしっかりと聞き取り、文字を見ながら読もうとする力が付いている。文字を書きたいという意欲も高まっているという。そこで、嘉多山先生は、6年生という発達段階も踏まえて、単に活動させるのではなく、子供たちの知的好奇心を高め、思考を促すような問い掛けをしながら、新教材を使ってゆっくり丁寧に授業を進める。

特に、文字を扱うときには、授業で扱う表現を子供たちと一緒に声に出してから、四線に書いた文字を黒板に貼り出し、再び一緒に読む。この日の授業では、“You can enjoy ... in ...”の表現を何度も繰り返しやり取りしたうえで文字を表示して、子供たちはどの季節に何を楽しめるのかを考え、当てはまる言葉を書き写していた。

「何も見ずに書くのは難しいですが、何度も声に出して慣れ親しんできた言葉をなぞり、書き写すのであれば、大きな負担にはなりません。書けたという自信も付きます。そうして授業で『話せた』『書けた』といった体験を少しずつ積むことで、子供たちには、自信を

もって英語でコミュニケーションを取ることができるようになってほしいと思います。そして、世界にお友達をたくさんつくってほしいですね」と、嘉多山先生は話した。

現場の教員ならではの実践を踏まえた研修

このような実践を校内で積み重ねてきた嘉多山先生は、この3年間、英語教育推進リーダーとして、札幌市内の先生方への研修も行い、実践を広めてきた。そして、全国の小学校の先生に向けて、メッセージを送った。「小学校の先生方は新学習指導要領に向けて、新たに取り組むべきことも多いですし、英語が苦手という先生も多くいらっしゃる

と思います。伝達講習では、現場で実践しているからこそ伝えられることがあると思います、ただ中央研修で学んだことをそのまま伝えるだけではなく、どうしたら子供たちが意欲的に活動に取り組んだかなどの実践例をお話ししました。それを聞いて、講習に参加された先生方は『自分にもできそう』『やってみよう』と少しでも感じていただけたようでした。外国語活動を通じて、子供たちは友達の良さに気付き、相手を思いやる気持ちが芽生えます。それは学級経営にもつながります。外国語活動担当の教員や専科教員だけが授業を行うのではなく、ぜひ全員の先生に経験していただけたらと思います」

従来の試験方式

英検

後援：文部科学省

1963年から50年以上にわたり親しまれてきた検定。全国約400の本会場と約17,000の準会場で年3回実施。

4技能をコンピュータで

英検 CBT

後援：文部科学省

2018年8月より、毎月1回全国13都道府県で実施予定。従来の英検と同じく全世代で受験可能。4技能をCBTにて1日で測定。

全員が二次試験を受験

英検

後援：文部科学省

2020 2 days

S-Interview

※文部科学省後援名義は今後申請予定

2019年度スタート。各年度の大学受験者対象。全員に面接形式のスピーキングを実施。試験は2日間。全国約400の本会場で実施予定。

「高大接続改革ニュース」

大学入試で活用される

従来の英検®と新方式の英検について

2020年度に高校3年生となり、「大学入学共通テスト」を受験することになる、現・高校1年生以下の生徒の皆さんは、今後どのように英検を受験していくのが望ましいのでしょうか。大学入試で活用できる英検について、ご紹介いたします。ぜひ一読いただき、生徒の皆さんへのご指導にお役立てください。

4技能を1日で完結

英検

後援：文部科学省

2020 1 day

S-CBT

※文部科学省後援名義は今後申請予定

2019年度スタート。各年度の大学受験者対象。スピーキングのみCBTによる録音形式で実施。試験は1日で完結。全国47都道府県で実施予定。

大学入試で活用できる英検は

全部で4方式に!!

現在実施されている「大学入試センター試験（センター試験）」は、2020年度より「大学入学共通テスト（共通テスト）」へと移行します（試験の実施は2021年1月）。それに伴う大きな変化の1つとして、英語試験については、共通テストの枠組みのなかで、公益財団法人 日本英語検定協会（英検協会）のような民間業者等が提供する外部資格・検定試験を活用することになりました。

そして、大学入学者選抜での外部資格・検定試験の活用を支援する仕組みとして、「大学入試英語成績提供システム」が設けられます。今後は各大学で、この「システムを介する入試」と「介さない入試」が実施されることになります。そこで英検は、従来より実施してきた方式に加え、新たな3つの方式を実施いたします。

大学入試センター試験 （センター試験）

共通一次試験に代わり、1990年度から国公立大学を対象として実施。2011年度からは、AO入試を実施する際に利用を留意することが明記された

大学入学共通テスト （共通テスト）

現行の大学入試センター試験に変わり、2021年度入試から実施されるテスト

※英語に関しては、外部資格・検定試験の活用が決定

大学入試英語成績 提供システム

2021年度入試から大学入学選抜における外部資格・検定試験の活用を支援するために、独立行政法人大学入試センターが設ける具体的な仕組み

現・高校1年生が、3年後の大学入試で活用できる英検は、①従来の英検、②英検2020 2 days S-Interview、③英検2020 1 day S-CBT、④英検CBT—の4つの方式です（※②と③は、高校3年生のみが受験可能）。

なお、「大学入試英語成績提供システムを介する入試」で認定されたのは、②英検2020 2 days S-Interview、③英検2020 1 day S-CBT、④英検CBT—の3つの新方式となります。①従来の英検は、システムを介さない入試では、これまで通りにご利用いただくことが可能です。

英検の種類	高1・高2	高3			実施方法
		AO・推薦	一般入試	共通テスト	
① 英検 後援：文部科学省	○	○	○	×	受験対象 制限なし 実施方式 PBT / 対面式 受験日数 2日 受験級 1級～3級
② 英検 2020 2 days S-Interview* 後援：文部科学省 2019年度～	—	○	○	○	受験対象 高校3年生 実施方式 PBT / 対面式 受験日数 2日 受験級 1級～3級
③ 英検 2020 1 day S-CBT* 後援：文部科学省 2019年度～	—	○	○	○	受験対象 高校3年生 実施方式 PBT / 録音式 受験日数 1日 受験級 準1級～3級
④ 英検 CBT 後援：文部科学省 2018年8月～	○	○	○	○	受験対象 制限なし 実施方式 CBT / 録音式 受験日数 1日 受験級 2級～3級

※英検2020 2 days S-Interviewおよび英検2020 1 day S-CBTの実施時期については現在検討中です。決定次第速やかにお知らせいたします。

※文部科学省後援名義は今後申請予定

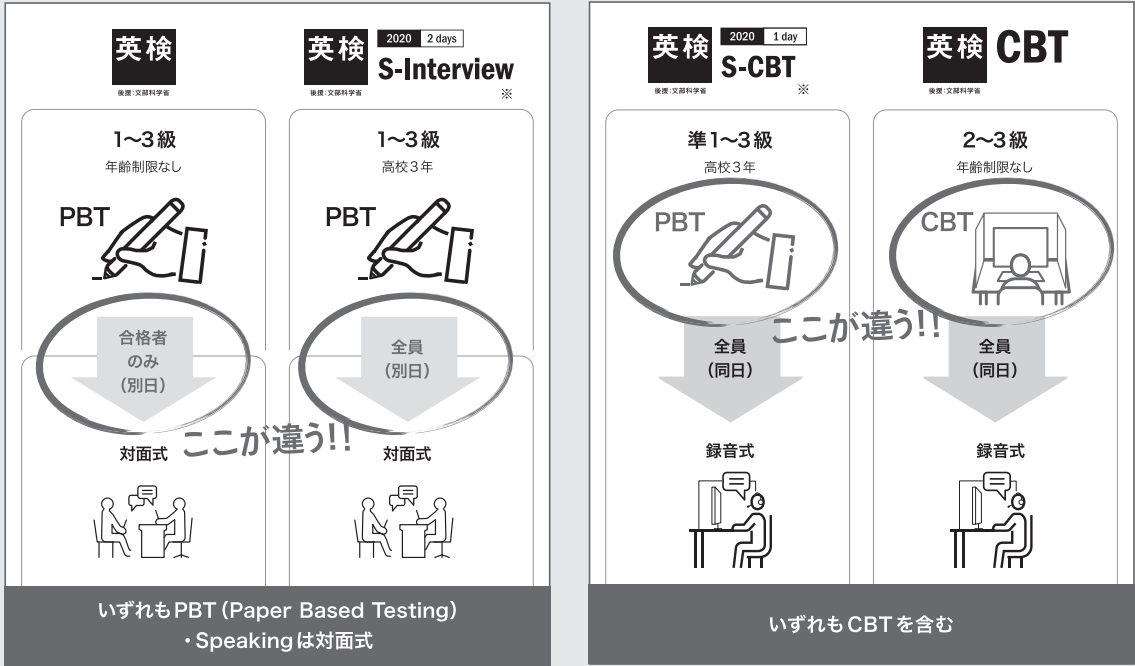
重要!! 2018年度高校1年生以降の英検受験について

◎高校2年生までは、①英検（従来型）もしくは、④英検CBTを受験

◎高校3年生になったら、「大学入試英語成績提供システムを介する入試」の受験可否について目標を定め、①～④のなかから、自分に合う方式を受験

従来の英検®と新方式の英検
その違いは？

従来の英検と3つの新方式の英検は、出題内容、難易度、採点基準、合否判定、証明書類は全て同じです。
いずれも同じ「英検」の資格として利用することができます。その違いは、実施方式にあります。



英検（従来型）

一次試験（Reading / Listening / Writing）の合格者のみが、二次試験（Speaking）を受験します。



2020 2 days
S-Interview

※文部科学省後援名義は今後申請予定

英検 2020 2 days S-Interview

実施方式は英検（従来型）と変わらず、Reading / Listening / Writingは紙の試験を受験し、Speakingは対面式の面接を別日程で受験します。Reading / Listening / Writingの合否を問わず、全員がSpeakingを受験します。



2020 1 day
S-CBT

※文部科学省後援名義は今後申請予定

英検 2020 1 day S-CBT

Reading / Listening / Writingは紙の試験を受験し、Speakingはコンピュータを使った録音式の試験を受験します。4技能全ての試験を1日で受験することができます。



CBT

※文部科学省

英検 CBT

Reading / Listening / Writing / Speakingの4技能全ての試験を、コンピュータを使って1日で受験します。Speakingはコンピュータを使った録音式の試験となります。

新方式に合わせた受験準備は必要？

新方式の英検について、「どのような受験準備が必要ですか?」といったお問い合わせをいただいています。試験の形式によって、受験者それぞれの得意・不得意がありますので、P.19の図をご覧ください。生徒の皆さんには、自身ももっとも実力を発揮できる方式を選んで受験していただくよう、ご指導ください。

	英検 後援：文部科学省	英検 2020 2 days S-Interview 後援：文部科学省 ※	英検 2020 1 day S-CBT 後援：文部科学省 ※	英検 CBT 後援：文部科学省
Reading Listening Writing	PBT	PBT	PBT	CBT
試験準備		英検（従来型）と同じ準備でOK	英検（従来型）と同じ準備でOK	Reading、Listeningは選択肢をクリック Writingはタイピング入力 Windowsパソコンの基本的な操作（マウスクリック、キーボード入力）をできることが必要
Speaking	対面式	対面式	録音式	録音式
試験準備		英検（従来型）と同じ準備でOK	録音式のため、制限時間内にコンピュータ等に向かって話すことに慣れておくとうい	

※文部科学省後援名義は今後申請予定

英検 2020 2 days S-Interview

従来の英検とまったく同じ形式ですので、4技能とも同じ準備で大丈夫です。また、コンピュータの操作があまり得意でない人向きです。

英検 2020 1 day S-CBT

Speakingテストが録音式のため、対面式の面接に緊張しやすい人にメリットがあります。ただし、制限時間があるため、事前にコンピュータやタブレット端末への録音に慣れる必要があります。

英検 CBT

4技能を全てコンピュータを使って受験します。Windowsパソコンの基本的な操作（マウスクリック、キーボード入力）ができることが必要です。

いつ、どの英検を受験すればよいのか？

従来の英検と、今年8月より毎月実施される英検 CBTは、対象を問わず、どなたでも受験していただくことができます。高校2年生までは、従来の英検と英検 CBTのうち、受験者が自分に合う方式を選んで受験するようご指導ください。

また、英検 2020 2 days S-Interviewと英検 2020 1 day S-CBTは、2019年度より実施を予定しています。この2つの方式は、高校3年生のみが受験できる試験ですので、高校3年生になったら、志望大学の入試要項に応じて、受験する方式を選んで受験するようご指導ください。

大学入試が今後大きく変わっていくなかで、英検協会は公益財団法人として、高校生の皆様が大学入試に向けて安心して英語学習に取り組むことができるよう、また、高校生の学習を支えていらっしゃる教育関係者の方々にも、お役に立てるべく最新の情報を随時ご提供し、英検をはじめとする各種資格・検定試験を円滑に運営してまいります。

引き続き、英検を英語学習の指標としてご活用いただきながら、大学入試においても、各大学の活用状況に応じてご受験いただけますようお願い申し上げます。

※記載内容は、2018年5月末現在の公開情報および英検協会の見解となります。英検の新方式の実施詳細は、今後、英検協会ウェブサイトにて随時、情報をご提供いたします。2020年度以降の入試への英語外部資格・検定試験の活用につきましては、各大学から今後発表される入学者受け入れ方針や募集要項などを必ずご確認ください。

詳しくは、英検協会ウェブサイト「従来の英検と新方式の英検を知ろう!～入試に向けた学習プランとは?～」をご参照ください。



〔連載〕

中学校・高等学校の

授業改善と

第2回 CAN-DO リストの活用

—作っただけで終わっていませんか?—

英語科全体で学習到達目標を共有

「平成29年度英語教育実施状況調査」（文部科学省）によると、下グラフのように高等学校では94.5%の学科が、CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定していますが、実際に指導や評価の場面で活用している割合はこれよりも低いと考えられます。せっかく作成するので、この機会に英語科全員で「英語を使って何ができるようにしたいか」という指導目標を語り合い、日々の授業で活用してはいかがでしょうか。

例えば、卒業時には「選挙権をもつ立場として、国内ばかりでなく国際問題についても関心をもってほしい」「1つの情報をうのみにせず、自分自身で調べたうえで話したり書いたりできるようになってほしい」「一方的に話すだけでなく、よい聞き手となってほしい」などという具体的な指導目標を、生徒の学習到達目標として、適切な文言に整えて次のように表します。

以下は、千葉県立長生高等学校が作

成したCAN-DOリスト形式による「コミュニケーション英語Ⅲ」の平成29年度の学習到達目標です。

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、グローバル社会における問題について主体的に学び、他者と話し合いながら情報や考えをまとめることができる能力を伸ばす。

ただし、学校ごとの指導目標とはいえ、当該校でしか通用しないような恣意的なものにならないよう注意する必要があります。CEFRのような尺度に照らしたときにどのレベルに相当するのかなど、生徒にも分かるような表現を使用することで、一般的に通用するものになります。そうすれば、英語4技能を測る外部の資格・検定試験を受験する生徒にとって、自分の到達レベルをCEFRに照らして把握することができるので、学習のよい動機付けにもなるはずです。

学習到達目標に向けた

指導と評価の一体化を

次に、生徒がこの目標に到達するためには、具体的に何を指導すべきかを考えます。授業においてどのような活動を行い、どのように評価するかということです。

例えば、前出の長生高等学校3学年では、Speakingの領域で次の5つの具体的な学習到達目標を立てています。

目標1 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。

目標2 発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりすることができる。

目標3 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合うことができる。

目標4 多様な考え方ができる話題について、事実や意見などを多様な観点から考察し、課題解決のために話し合うことができる。

目標5 与えられた条件に合わせて、即興で話すことができる。

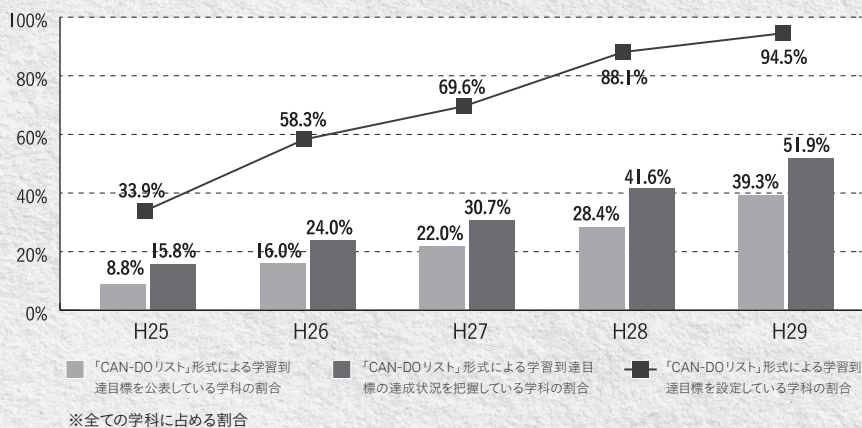
目標1 に到達させるためには、複数の技能を統合した授業を行うことになりますが、評価においては技能ごとの学習到達目標を立てます。次の2つは「コミュニケーション英語Ⅲ」の評価の対象となるSpeaking活動です。

- ① Parliamentary Debate 〈1、2、3、5〉
- ② Discussion 〈1、2、4、5〉

〈 〉内は活動における上記の学習到達目標
授業ではSpeaking活動を行っているにも関わらず、評価は定期考査時の

「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の設定等の状況

出典：文部科学省



評価のあり方

百瀬 美帆（ももせ・みほ）

明海大学教職課程准教授。千葉県内の公立高等学校で、長年にわたり4技能を育む英語授業、国際交流プログラム等为先導・推進してきた経験や県内の教員研修講師等の経験をもつ。2017年4月より現職。「レクシス英和辞典」（旺文社）、外国語教科書「empathy oral communication I・II」（教育出版）などの執筆のほか、文部科学省作成「Broaden Your Horizons with English! - 英語を使って羽ばたく日本人 -」DVD添付用ワークシート作成に携わる。

Listening、Reading、Writingの3領域しか行わないのでは、生徒がSpeaking活動を重要視しなくなるのは当然です。ところが、外部資格・検定試験の導入が、高等学校におけるSpeaking指導と評価のあり方を大きく変えようとしています。高等学校でのSpeakingの指導とパフォーマンステストの実施は、もはや避けられないといえるでしょう。

最終ゴールから逆算して年間指導計画を

年間指導計画は、まず卒業時の学習到達目標（指導目標）を設定し、そこから逆算して、2学年末、1学年末には生徒が「英語を使って何ができるようになるか」を考えてから立てていきましょう。例えば前出のSpeakingの**目標1**については、2学年で「聞いたり読んだりしたこと、学んだり経験したりしたことの概要をまとめ、聞き手に分かりやすい構成で伝えることができる」となり、1学年で「聞いたり読んだりしたこと、学んだり経験したりしたことの概要をまとめ、簡潔に話すことができる」というようになるために、年間指導計画と評価計画を立てます。

2学年ではAcademic Debateを評価の対象とした活動（評定を付けるためのパフォーマンス〈テスト〉）とします。Parliamentary Debateに比べて求められる即興性は低いのですが、聞き手にとって新情報であるリサーチ結果を分かりやすく伝える必要があります。2学年末でこの目標まで生徒が到達するように指導し、3学年での即興性を必

要とするParliamentary Debateに進められるようにします。また、1学年末には、伝達する側、聞く側の双方に必要な基礎的な表現や技能が使えるように指導するので、この活動をBasic Debateと名付けています。

日々の授業でもゴールを意識する

授業全体の「本時の目標」について、小学校では「めあて」、中学校では「GOALS」などと板書されている場面をよく目にしますし、高等学校でも明示される先生方が増えているように感じます。ここでの表現はCAN-DOリストからの文言そのものではなく、題材と直接結び付く文言等を使用することで、生徒が「活動を通じて、自分が何をどのようにできるようになるのか」が明確に分かるように工夫しましょう。

例えば、CAN-DOリストの「聞いたり読んだりしたこと、学んだり経験したりしたことの概要をまとめ、簡潔に話すことができる」という学習到達目標を、Coffee and Fair Trade（『Genius English Communication I』よりLesson 9：大修館書店）の単元で、コーヒーの歴史について読んだ内容を口頭要約して伝える活動の目標に落とし込む場合、次のようにワークシートに書きました。

Today's Goal: I can tell the history of coffee in more than two sentences.

さらに、以下のような自己評価欄を設

けることで、生徒に学習におけるPDCAサイクルを身に付けさせます。

	✓
Who first found coffee beans? How?	
What did he find then?	
What did he do after that?	

授業のなかで、生徒自身が明確な目標のもとに、それに向かって努力し、目標が達成できたかどうかについてのフィードバックを日常的に得ることに慣れれば、評定を付けるためのパフォーマンステストでも緊張せずに力が発揮できるようになることでしょう。

子供たちの未来のために

子供たちを待ち受けている社会は変化が激しく、常に、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる「知識基盤社会」です。そうした社会をたくましく生き抜いていくためには、適切な目標を設定し、その到達のために何をすべきかを自ら考え、判断を下し、結果や成果をフィードバック材料として活用できる能力が必要です。次世代を担う人材育成に携わる私たち教師は、日々の授業を通じて、生徒たちがこのPDCAサイクルを内在化した「自律した学習者」となることを究極の指導目標として指導していきたいものです。

次号では、「パフォーマンステストと定期考査」について考えます。

授業で「評価」のためのアイデア

第2回：学びの過程を振り返る

～ CAN-DO リストを用いたポートフォリオ形式の評価例～

授業の初めに提示された「今日のめあて」について、終わりに「振り返りシート」を使って自己評価したり、気づきや感想をまとめたりする活動は、「外国語活動」で広く行われています。これに加えて、単元末、あるいは学期に数回、それまでの英語学習全体を振り返り、児童に「英語を用いて自分は何ができるのか」「どのようなことは得意で、どのようなことはまだ自信がないのか」を具体的に意識させる形の評価を取り入れてみてはいかがでしょうか。

移行期間から使える自己評価シート

愛知県義務教育問題研究協議会が2017年度に作成した『My English Passport』（右ページ写真）は、新学習指導要領を意識して、移行期間から使えるようデザインされた「自己評価シート」です。小学校の3～6年次まで通して用いることができ、「初めて手にした日」を「発行年月日」、そして「小学校を卒業する日」を「有効期限」とする、いわゆる“パスポート”のイメージで作られています。各年度の初めに「行ってみたい国」と「1年間の英語の学習を通じてがんばりたいこと」を記入し、指導者に「入国スタンプ」を押してもらいます。この「入国審査」を経て、いよいよ学習開始（＝入国）です。

シートには、新学習指導要領対応教材『Let's Try! 1、2』と『We Can! 1、2』の年間指導計画に基づき、各学年の学習内容が、技能ごとに項目としてまとめられています。これらの項目について、学期に数回振り返りを行い、年度の終わりに指導者と一緒に確認をして、「出国スタンプ」をもらってから次の国（学年）へと旅立つストーリー

性をもたせています。最終ページには4年間分記入できる自由記述欄があり、年度を通した児童自身の振り返りと、それに対する指導者や保護者などのコメント、さらに「中学校の英語の学習でがんばりたいこと」を記録します。このように、英語学習が年度ごとに完結するのではなく、小学校4年間を通じて、さらに中学校へとつながっていく意識を児童にもってほしいという願いが込められています。

3段階の基準で自己評価する

「自己評価シート」である『My English Passport』は、「何がどこまでできるようになったか」を児童が自分で評価できるように作られています。各項目は「～できる」というCAN-DO形式の記述であり、これらは「できる」「できない」のどちらかに児童を振り分けるのではなく、「この1年間の学びを通してできるようになる」と、めざしてきたことに照らし合わせて、自分が今どういう状態にあるのかを把握することを意図しています。

そのため、学習内容を表すそれぞれ

の項目には「○○○」と3つの○が添えられています。これは、項目に述べられた内容について、児童がただ何となく「できる」度合いを判断するためものではありません。「先生や友達の手助けをかりてできる（→一つぬる）」「自分の力で何とかできる（→二つぬる）」「自分の力でしっかりできる（→三つぬる）」のように、めざす児童の姿に向かって、3段階の基準に照らし合わせながら自己評価させることを提案しています。そして1回の振り返りで終わることなく、2回目以降はこれまでの学習内容を改めて評価し、力が伸びたものは違う色で塗り足しながら、学習成果の変容が見えるように記録していきます。

活用上の留意点

この『My English Passport』は、学習の過程を中長期的に記録する「ポートフォリオ」による評価だけでなく、「CAN-DOリスト」を用いた評価の側面をもつものと言えます。こうした評価を行う際には、右ページに示した3つの点に注意が必要です。

1. 最初に、児童と指導者で項目全体（学びを通して「英語でどのようなことができるようになるのか」）の理解を十分に共有する。

各年度初めに行われる「入国審査」は、学びへの動機付けを高めるだけでなく、1年間を通してめざす多くの目標を児童と指導者が一緒に理解する大切なイベントでもあります。児童は「英語を使ってこんなことができるようになるんだよ」と1年後の自分の姿に期待を膨らませ、指導者は年間の授業の見通しをもち、目標を達成できるように組み立てていきます。このように学びの過程の意識化を行うことで、学習者として、指導者としての自律性が高まれば、それぞれの立場から効果的な学びへの貢献ができるようになります。

2. 児童が各項目の内容をしっかりと理解できていることを確認する。

例えば、高学年の「書くこと」に関する項目には、「語順を意識して」「例を見ながら」「語と語の間にスペースを入れて」など、また、「話すこと」では、「感想や理由を添えて」のように教科を意識した文言が含まれています。児童が「目標とされる姿」を正確に捉えられるよう、その「姿」に照らし合わせて「振り返り」を行うことができるように注意を促すことが大切です。指導者も、項目が意味するものを授業で扱う言語活動に十分反映していかなければなりません。

3. 言語活動の「目的・場面・状況（授業でどのような活動を行ったか）」を思い出してから評価させる。

『My English Passport』の項目には、「何のために、どういう場面で」といった情報は含まれていません。これは、指導者によって授業で扱う活動内容がさまざまであるためです。評価に際しては、項目ごとに、「この表現はどのような活動の時に使ったかな」「これらの語句を使って何をしたかな」と児童に語り掛け、言語活動で設定した「目的・場面・状況」を具体的に思い起こさせることが大切です。

私の経験では、例えば4年生の「英語で自分が持っている物（文房具など）を言える」（『Let's Try! 2』Unit 5に対応）という項目を見た児童が、「I have da! I have book!」「I have five pen! って言えるよ!」などと次々に言い始めることがありました。「そうだね、I have a book! I have five pens! ほかに?」と言いながら、児童が教科書を持ち上げたり、自分の筆箱をのぞき込んだりしながら何か伝えようとする姿を見るとうれしくなります。評価活動が「学んだ表現を使って何かを伝えようとする」ことにつながっているからです。言語の学習は、実際にその使用場面と結び付いてこそ、意味あるものと言えます。児童の自己評価を観察することは、「授業のなかで、相手に伝えなくなる、あるいは相手と伝え合う必要のある場面設定ができていたかどうか」を指導者として振り返り、授業を見直すきっかけにもなるのです。

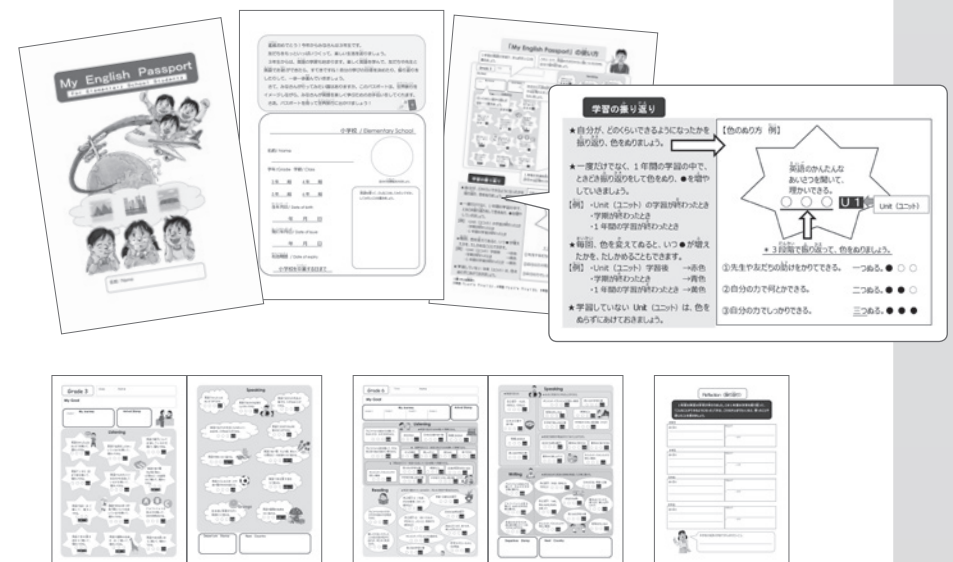
移行期間は新学習指導要領の学習内容も一部含むからこそ、各授業だけでなく年間を通してめざす姿を児童とともにしっかりと理解し、評価を授業改善に生かすことが重要です。『My English Passport』は、学校や児童の実状に合わせて項目を変更できるよう、PDF版に加えWord版ファイルが下のQRよりダウンロードできます。まずはこうした既製のCAN-DO形式の評価シートなどを活用しながら、徐々に目の前の児童に適したものとアレンジしていきましょう。



池田 周（いけだ・ちか）

愛知県立大学外国語学部准教授。英国ウォーリック大学博士課程修了。博士（英語教育・応用言語学）。小学校英語教育学会愛知支部理事、「愛知県義務教育問題研究協議会専門部会」委員、文部科学省「小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会」委員などを務める。外国語としての英語リテラシー習得について、小・中・高等学校を通じた指導のあり方、および国語科と外国語科の連携に関心をもつ。

『My English Passport For Elementary School Students』愛知県教育委員会義務教育課ウェブサイトより



〔連載〕

安河内哲也先生が聞く

英語で授業

安河内 哲也（やすこうち・てつや）

一般財団法人実用英語推進機構代表理事、東進ハイスクール、東進ビジネススクール英語講師。文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」委員を務める。英語学習の楽しさを世に広めるべく、テレビ番組などでも大活躍中。英検1級など英語関連の多数の資格を持つことでも知られる。



明日から
使える！

【第16回】

7つの鉄則

茨城県立竹園高等学校

植木 明美 先生

植木 明美（うえき・あけみ）

茨城県立竹園高等学校教諭。茨城県高校教育研究会
英語部英語ディベート委員会委員長。

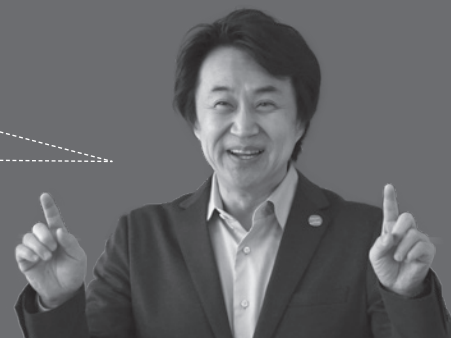
生徒の言語活動中心で、多様な考えを認め合い、 相手の意見を自分の言葉で言い換える力を高める

筑波研究学園都市地区内に設立された茨城県立竹園高等学校。文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）や、茨城県教育委員会の「イングリッシュ・シャワー・プログラム」の指定を受け、「ACEプログラム」という独自の英語教育にも取り組み、教科書を活用したディベート活動を通して、英語の発信力を育成しています。こうした教育の成果が評価され、2017年度には、第3回 ELEC 英語教育賞の文部科学大臣賞も受賞しました。植木明美先生が指導する1年生の「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業を取材し、同じく1年生を担当する、大塚毅先生も交えて、英語で授業を行う7つの鉄則を伺いました。

「ACEプログラム」とは

ACE＝Approach to Communicative Englishの頭文字より。2003年度からの3年間、茨城県教育委員会から「イングリッシュ・シャワー・プログラム」の指定を受け、国際科で「英語が使える高校生の育成」に取り組んできたが、それを継続し、発展させるために設定した英語教育プログラム。立教大学経営学部国際経営学科の松本茂教授がプログラムのアドバイザーを務める。国際科・普通科ともに同じシラバスに基づいて、ACEプログラム講演会、校内英語スピーチコンテスト、JICA 筑波研修員との異文化交流会、公開授業を行うほか、通常の授業と結び付けながら、学年ごとのプロジェクトを設定し、生徒の英語コミュニケーション能力の育成をめざす。

高校に入学して間もない生徒たちが、積極的に英語で
ペアワークに取り組み、相手の話す内容を自分の言葉
で発信するリフレーズ活動にご注目ください。



植木先生の
授業の様子は
こちら

本日の授業

1年生「コミュニケーション英語Ⅰ」

使用教科書：CROWN English Communication I（三省堂）／単元名：Lesson2 Going into Space

Further
Reading
1

相手の話を聞き取り、リフレーズする

教科書本文より、宇宙飛行士の若田光一氏が宇宙で体験したことをペアで描写する。事前に自宅学習でまとめてきた自分の考えを一方の生徒が述べ、もう一方の生徒はメモを取りながら内容を聞き取り、リフレーズする。対話をしながら、自分の意見と異なる他者の意見に触れ、友達同士で学び合う活動だ。



Further
Reading
2

パートナーの考えを書き、答えは1つでないことを理解する

生徒の1人が自分の考えを発表し、ほかの生徒は話を聞きながらメモを取ったあと、ペアでリフレーズする。さらに、指名された生徒がリフレーズした内容を発表する。続いて、パートナーの考えをワークシートに書き起こす。植木先生は表現のサンプルを示すが、「答えは1つ」ではなく、それぞれの考えがあってよいと伝えた。



Further
Reading
3

相手に伝わるように、ゆっくり、はっきりと話す

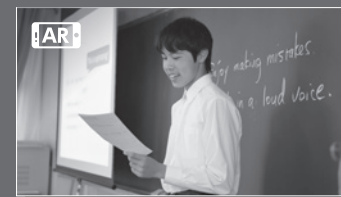
若田氏の主張である“I do it because it is a challenge and because it is important for humanity.”について、ペアで意見を伝え合う。「伝わるまでは話し手の責任」という自覚をもって、生徒は相手に分かりやすいように大きな声で、ゆっくりと、はっきりと、自分の考えを告げる。パートナーはメモを取りながら相手の意見を聞き取り、リフレーズする。



Further
Reading
4

発表を聞き、ペアでリフレーズし、全体で共有する

再び生徒の1人が発表する。ほかの生徒はメモを取りながら、聞き取った内容をペアで話し合ったあと、1人が発表し、全体で共有した。植木先生は生徒の発言を丁寧に拾い上げ、より良い表現へと導いていく。その後、サンプルの表現を示して内容を補足しながら、「これはサンプルであって、自分の考えがあってよい」と説明した。



Mini
Presentation
1

ライティングからスピーキングへつなぐ

若田氏について5文以内で紹介文を書くよう指示される。「3文で書ければさらによい」とした。1文目は全員共通で、“Mr.Wakata is an astronaut.”と書き記し、生徒たちは続きを5分間で書き上げた。ペアでのスピーキングとリフレージングでは、自分の書いた英文を、相手が理解できるように話し、1回目は書いた英文を見ながらでもよいが、2回目からは書いた英文は見ずに相手の顔を見ながら話せるようにすることをめざす。相手が話しているときには、必ずメモを取り、リフレーズする。



Mini
Presentation
2

何も見ないでスピーチできるように練習する

ペアを替えて、自分が書いた紹介文を新しいパートナーと伝え合う。できるだけ書いた英文は見ないで話せるように意識する。最後に全員が立ち上がって、パートナーと向き合い、書いた英文を見ずに、相手に伝え合う。話し手は相手に分かりやすいように話し、聞き手は相手の話を聞き取り、リフレーズする。全ての活動を終わると、全員で拍手をしてお互いを褒めたたえ、和やかに授業が終了した。



鉄則その1

一人でできることは家でやる

授業は言語活動を行う場とするため、読む、書く、内容を調べる、といった自分でできることは全て、自宅で入念に取り組み、語彙も、教科書準拠教材を使って自宅で学習するよう指導しています。自宅学習をしないこと、授業でペアワークのパートナーに迷惑がかかり、活動が進まなくなることを生徒も実感し

ているため、授業ですることと、自宅ですることを分けて考えられるのです。授業ではリフレーズを多く取り入れています、リフレーズできるということは、教科書本文の内容が理解できているということであり、どの程度リフレーズができたかということが、理解度の指標とも考えられます。良いリフレーズのた

めには、自宅で教科書を読み込むことが必要なのです。



鉄則その2

レッスンが違ってても技能は同じ

「コミュニケーション英語」は、レッスンが進んで語彙や本文の難易度が上がっても、基本的に授業の流れはいつも同じように組み立て、活動のなかで使用する技能は同じにしています。授業はサマリーを作ることから始まり、本文を読んで話し、リフレーズをするためにメモを取ったり、友

達の話を聞いたりして、最終的には自分の考えを書き起こすというように、4技能を統合しながら使っていくのです。「英語表現」の授業でも教科書を活用して、表現のための文法を学びながら、できるだけ生徒自身が発表する機会を多く設けるようにしています。授業は生徒が英語を使う場で

あることを大切にしています。



鉄則その3

リフレーズとクイックリスポンス

どの学年の、どの科目の、どのレッスンにおいても、生徒の言語活動中心の授業を展開していますので、ペアワークは授業の重要な役割を担います。1年生の初めのうちから、ペアでリフレーズに取り組み、パートナーととにかく話さなければ活動が進まないという状況をつくっています。もちろん初

めは緊張して英語を話すことに抵抗がある生徒もありますが、同じ生徒と何度も繰り返し活動することで話すことに慣れ、次第にペアを替えて活動しながら、いろいろな友達と話すことに慣れていきます。クイックレスポンスについては、日常の会話と同じように、書いてから話すのではなく、考えながらと

にかく話し始めるということを大切にしています。



鉄則その4

要旨を素早く把握する

入学初期の段階では、教科書本文の内容を理解するうえで、セクションごとの要旨を理解してセクションサマリーを作るという形をとっています。本文から多くの情報を取り出そうとすると、結局は要旨がまとまりません。そこで、セクションごとに読みながら、自分がそのなかで一番良いと思った部分

について、ペアでお互いの考えを話し合いながら、作者がそのセクションで何を言いたかったのかを見つけていくという学び方をしています。また、リフレーズをするときには、教科書本文では5文で述べられていた内容を1文で言い表してみるというように、できるだけ短く簡潔に表現できるように指

導しています。



鉄則その5

論理のズレを見抜く

本校はACEプログラムという英語教育を展開し、全校を挙げて英語コミュニケーション能力の育成をめざしています。1年生ではレシテーションとプレゼンテーション、2年生では競技ディベート、3年生ではディスカッションとエッセイ・ライティングに取り組みます。ディベートをするうえでは、論理のズレを見

抜く力も必要ですが、日頃から教科書本文を読み進めるなかで、論理がズレていたり、説明がないと分かりづらかったりする箇所に、生徒自身が気付くような指導をしています。また、クエスチョンメイキングをして、生徒同士がシェアするなかで新たな疑問が浮かんだり、ペアで考えた質問のどちらが答えるのに

難しいかをディスカッションさせたりするなどしています。



鉄則その6

自分と違う意見を認める

生徒たちがこれから進んでいく社会では、多様な文化の人々と協働していく力が求められます。そのためには、自分と異なる意見を認め合うことが重要です。そのためにも、教科書本文に関連する内容について、教員からオープン・クエスチョンを多く発問し、それに対して生徒が自由な発想

で発言できるように心掛けています。生徒には、正しい答えは1つしかないのではなく、多様な考えがあってよいと伝え、ペアで話し合うときには、自由に考えさせて自分の考えを発言し、ときに agree / disagree も表明しながら、なぜ自分はそう考えたのか、その理由を必ずお互いに説明し合

うことを指導しています。



鉄則その7

協働して学ぶ集団を作る

1年生の入学直後から、英語の授業では教員の発話を極力減らし、生徒が英語を使って活動する時間を長く取るようにしています。授業ではペアワークを多く取り入れており、初めは隣の席の生徒とペアを組んで活動します。次第に英語で話すことに慣れてきたら、席の前後をずらしてペアを替え

て、別の友達とペアを組んで活動します。そうして、たくさんの友達と話し、意見を交換していくなかで、生徒たちはお互いの考えを認め合い、親交を深めていきます。こうして生徒の言語活動中心の授業を進めていくなかで、生徒同士が話す時間が長くなり、親和関係が築かれ、ともに学び合い、ときには助

け合おうとする学習集団ができ上がっていくのです。



植木 明美 先生

安河内 哲也 先生

大塚 毅 先生

高等学校編

第2回

一生現役のActive Learnerが育つ授業づくり



石川県立小松高等学校
福岡 輝樹 先生
Teruki Fukuoka

高等学校の新学習指導要領では、生徒が身に付けた知識を活用し、課題の解決方法を探る授業を通じて、主体的に学び、生涯にわたって学び続ける姿勢を養うことをめざしています。現行の学習指導要領の「授業は英語で行うことを基本とする」という基本方針をさらに充実、発展させ、生徒の言語活動を高度なものにしていくために、どのような授業が求められるのでしょうか。第2回は、石川県立小松高等学校の福岡輝樹先生による、新学習指導要領を見据えた実践をご紹介します。

生徒が互いにアイデアを高めていける授業

本校は東に霊峰白山、北に日本海を望み豊かな自然に恵まれた、石川県小松市にある普通科と理数科を併せもつ高等学校です。文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール (SSH) の指定を受け、国際的科学系人材育成を「自主自律」「文武両道」の校風のなかで実践しています。新学習指導要領へ

の対応を見据えた、本校での授業実践
を紹介させていただきます。

私は授業を通して、「一生現役のActive Learnerの育成」をめざしています。グローバル化が進み、さまざまな人々の交流が活発になっていく社会において、互いの価値観を認め合いながら、学び合い、理解を深め、目標達成の

ため協働していくことは、世界をよりよい場所にするために大切なことだと考えています。生徒たちが論理的に意見を伝え、理解し合い、アイデアを高めていく経験ができるように授業をデザインし、論理的な表現力の伸長とコミュニケーション能力の育成をめざしています。

徹底した「話す練習」で、論理的な表現力を伸ばす

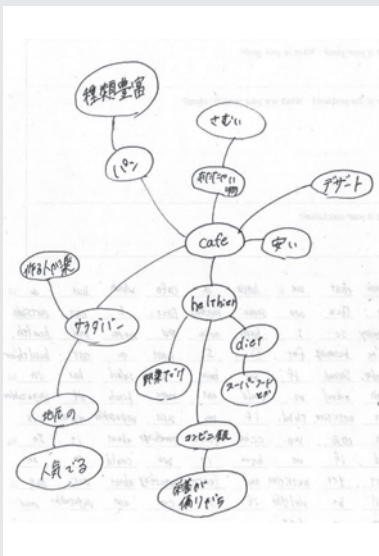
まずウォームアップでは、生徒同士の英語のやり取りを大切にしています。ペアを組み、“Who is your favorite artist?”などの身近なテーマで簡単な会話をし、どちらかが話し続けるのではなく、テンポよく会話のやり取りをたくさん行うことを重視しています。“How about you?” “By the way...” “So, what?”などの会話を続けるうえで役立つ表現を教え、生徒たちは実際の会話のなかで用いながら意見交換をします。

続いて表現活動では、論理的な思考に基づいて、自分の意見を表現する能力を伸ばすことが目標です。意見をただ伝えるだけではなく、理由や実例を示し、相手も納得できる根拠を添えて説明することを大切にしています。その際には、①表現するためのモデルとして、結論先行型のPoint → Reason → Example

→ Point (PREP)を意識させ、自分の意見を簡潔に述べて理由を説明する、②具体例や経験に照らして正当性を主張し、最後に結論をまとめる——この流れで思考をまとめ、話す練習を通じて、生徒の論理的な表現力の伸長を図ります。

これらは主に、2年生を対象にした「英語表現Ⅱ」の授業で行っています。今回の実践報告は、自分のアイデアを提案する表現を学ぶ単元において、Ideal School Cafeteriaというトピックで活動を展開したものです。

“Do you like our school shop?”
“Do you often buy your lunch at the school shop?”などの簡単な質問から始まるやり取りを通してスキーマを活性化させたあと、生徒たちは理想の学生食堂についてマインドマップを描き、イメージを膨らませました【写真1】。そしてPREP



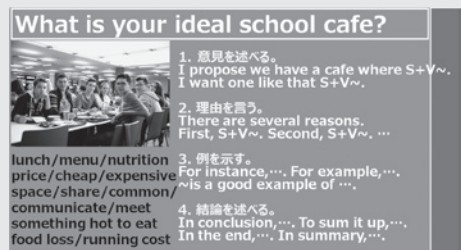
【写真1】生徒が描いたマインドマップ

の型に合わせて、パートナーに自分の考えを説明します。その際、視覚支援として、キーワードやディスコースマーカーの例

を示したスライドを提示しておきます【写真2】。生徒は示された表現を参考に、結論をめざして話し、話者の交代を含め、2分ほどでローテーションしながら繰り返していきます。回を追うごとに、説明する制限時間を設定したり、マインドマップを見ないようにしたり、アイコンタクトを増やしたり、話のあとで質問をしたり、と負荷を加えていきます。また、次の相手との活動を始める前に、短い振り返りの時間を

取って、うまく伝えられなかったところや表現が思いつかなかった部分を考え直したり、周囲に相談したりして準備をします。このような流れのなかで、自分の意見と、それを支える根拠を説明する表現が磨かれていきます。相手を変えながら、何度も自分の意見を述べるので、最初はマインドマップを片手に、ぎこちなくなんとか伝えていたところから、相手の目を見

て堂々と説明し、質疑応答にも笑顔で対応できるようになっていきます。



【写真2】自分の考えを説明するための視覚支援のスライド

ライティングにも fluency first、間違いを恐れない

十分に語ることができるようになったらライティングに移行します。本校に着任した当初は、accuracyを求めるがあまり、間違いを恐れ、面白いアイデアがあるのにまったく書けない、という生徒が少なからずいました。この状況を打破すべく、ライティングにも fluency first で取り組もうと考えました。

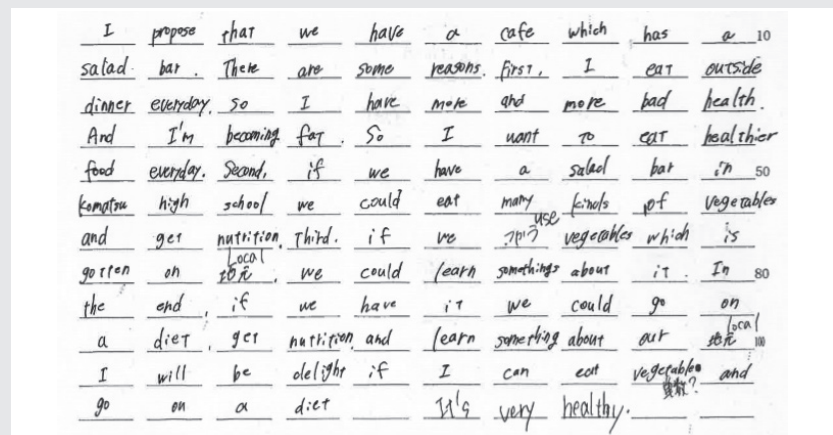
まず、スピーキング活動で自分の主張の提示から理由、根拠、結論までたくさ

んやり取りをして、PREPの流れが練られた状態で書き始めます。ここで大事な
のは、制限時間を設定し、英文を書いて
いく流れを止めないように集中して一気
に書き上げることです。消しゴムと辞書
は使わず、間違えたら二重線で消し、パツ
と思いつかない語彙は、英語の文法に合
わせて日本語で書いてもよいことにして
います【写真3】。

書き終えたら、生徒たちの間で回し読

をします。ほかの生徒の作文を読んで
 いるときには、表現の間違いや意味が伝
 わりにくい部分にアンダーラインを入れ、
 最後に簡単なコメントを記入させていま
 す。これも制限時間を決め、ローテーシ
 ョンで作文をぐるぐる回し、生徒たちは互
 に英作文のピア・コレクティングをします。
 その後、元の筆者に作文を戻し、アンダー
 ラインやコメントを参考にしながら、清書
 をして提出します。そうして提出された作
 文から、common mistakesやerrors
 worth spreadingを抽出し、生徒たちに
 改善案を考えさせることで、accuracyへ
 のフィードバックとしています。

生徒たちはこの活動を通して、異なる考えをもったほかの生徒と意見を交換し、互いの良い点を吸収し合いながら自分のアイデアを発展させていきます。また、英語での表現の仕方についても、改善案を出し合い、学び合っていきます。教師の役割は、タイムマネジメントや視覚支援の用意など、生徒間の学び合いを促進させることに終始しています。



【写真3】十分にスピーキング活動で自分の主張を練ってから、集中して一気に書く

教師は生徒の学び合いを促進させる facilitator

このように私の授業では、生徒たちが他者とのやり取りを通して、学び合う場面を生み出すことを大切にしています。授業者としての私の役割は、“teacher”というよりは、生徒の学び合いを促進させるための“facilitator”である時間が増えてきました。答えや知識を与えるのではな

く、生徒たちが自分たちの創造力で独自の答えに到達できるように授業をデザインしていきたいと思います。生徒たちが、学んだ知識や技能を駆使して、周りの友達と協力しながら、正解が1つに定まらない問いに挑戦していく。授業中には、教師よりも、生徒のほうがよりたくさん考

え、動き、汗をかく。生涯を通じて、周囲にいる人々と学び合いながら、直面している問題に対する独自の答えを創り出していく。「一生現役の Active Learner が 育つ授業」を探究し続けていきたいと考えています。

中学校編

第2回

キーワードは「つながり」と「深い学び」



岡山県 倉敷市立真備中学校

黒明 堅一郎 先生

Kenichiro Kuromyo

2017年3月に告示された中学校の学習指導要領は、2018年度から3年間の移行期間を経て、2021年度より全面实施となります。今回の改訂により、英語の授業は、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」とされました。新学習指導要領に向けて、授業改善に取り組む先生方によるリレー連載第2回は、岡山県倉敷市立真備中学校の黒明堅一郎先生による実践です。

1 時間・1 単元・1 年間・3 年間の授業の「つながり」

私の授業で一番大切にしていることは、1時間・1単元・1年間・3年間の授業の「つながり」です。大きな目標を

3年間学習した生徒の姿



1年間のカリキュラム



1単元の授業計画



1時間の授業づくり

もとに、生徒のスモールステップを考えていくことが大切であると考えています。そのために各学校で作成しているCAN-DOリストがあり、その基本となる1時間の授業でも、大きな目標を意識しながら、その時間のなかの目標をもとに授業づくりができるのではないかと思います。

また、英語を知識として学習するだけでなく、言語として使う場面も必要です。そのため、英語でアウトプットする時間も大切にしています。ただアウトプットするだけでなく、生徒が自分で考えたり、



友達と話し合ったりして、自分（たち）の考えを英語で伝えることを1時間の授業のなかで少しずつ取り入れています。

「つながり」と「深い学び」を意識した授業づくり

私は2015年夏に「第3回全英連・英検共催 英語教員国内研修」に参加しました。そこで全国の先生たちとグループを組み、1時間の授業をつくる活動をしました。そこで学んだことが1時間の授

業のなかの「つながり」と「深い学び」です。生徒の知的好奇心を育みながら、1時間を通して、ストーリー性のある授業を展開し、生徒が自分で考え発表する場面をつくる。私が現在実践してい

る授業の原点がここにあります。この経験を生かし、私がどのように授業づくりをしているのかを紹介します。

全英連・英検協会共催 英語教員国内研修

英語教員の指導力・資質向上を目的として、2013年度より、毎夏に3日間かけて実施されている「全英連・英検共催 英語教員国内研修」。有識者による基調講演をはじめ、指導経験豊かな講師の助言のもと、全国から集まった教員たちが校種別に授業案を作成し、最終日に模擬授業を行う。授業づくりや指導法を学ぶための実践的な研修の機会となっている。



黒明先生が参加した研修の様子



実践1 2年生 ケンがエンジニアになりたい理由は何? ～読みもの教材から「つながり」～

倉敷市で使用している教科書の読みもの教材に、『My Dream』という将来の夢をテーマにしたものがあります。読みもの教材では、2つの大切なポイントがあると考えています。まずは、筆者が一番言いたいことを読み取ること（理解）です。生徒がそこにたどり着くために「つながり」を意識した活動を取り入れています。授業では以下のような流れで行いました。

1. Small Talk

「自分の将来の夢は?」をテーマに、生徒たちに自分の夢についてコミュニケーションさせる。

2. BINGO

本文に出てくる単語の発音とスペルの一致。

3. 導入

ディズニー映画『ベイマックス』を取り上げ、内容を教員が口頭で説明する。

4. 目標設定

教材『My Dream』の登場人物ケンが、エンジニアになりたい理由は何かを見つけるように生徒に伝える。

5. リスニング①

何も見ることなく音声聞き、内容を理解する。その後、聞き取った内容に関して、ペアで英語で情報交換をする。

6. リスニング②

教科書を見ながらリスニングをする。

7. 単語

リスニングで分からなかった単語を、フラッシュカードで練習する。

8. リーディング

『My Dream』を読み、ケンの夢の理由を見つける。

このように、全ての活動が、その目標に向かってつながりがあるということが重要であると考えています。そうすることで、どの生徒も安心感をもって目標にたどり着くことができます。

実践2 2年生 どんなロボットを作りたいですか ～読みもの教材から「深い学び」～

読みもの教材を扱ううえで、大切なポイントの2つ目が、それを読んで自分ならどう考えるか（深い学び）という点です。ただ読むだけでなく、そこから考えを膨らませること、つまり想像力を膨らませ、それを友達に伝えることが大切です。今回の読みもの教材では“What robot will you want to make in the future if you are an engineer? Write your opinion.”という質問を与え、生徒たちが好奇心をもってコミュニケーションできるようにしました。ここでの活動の順番はとても大切です。

1

質問を与え、少し考えさせてからコミュニケーションをさせる。
文法を気にせず、友達に自分の考えを伝えるよう強調する（即興性のある話す活動）。

2

コミュニケーションをさせたあとに、その内容を英語で書いていく。文法も確認しながら、自分の考えを書いていく（書く活動）。
このように、「話す活動」から「書く活動」という、アウトプット活動から確認の作業をさせることで、「深い学び」から学力への定着も図られるのではないかと考えました。

英語教師の「つながり」と「深い学び」

今の私があるのは、英語教師の仲間たちとの「つながり」と「深い学び」のおかげです。多くの研修を通して、岡山県内、そして全国の先生方と話す機会をいただき、多くの「つながり」をもつことができました。そこで新しく知ることや学

ぶことが多く、大変勉強になりました。また、その先生方から得たことを、自分で考え、自分の授業に少しずつ取り入れています。
まずは、身近な公開授業や研修会に足を運んで、多くの先生たちと話をし

て交流を深め、そこで自分の授業を振り返ってみませんか。私自身も今後さらにレベルアップすることができるよう、「つながり」と「深い学び」を大切にしていこうと思います。

小学校編

第2回

「自然な」「自然に」「自然と」を意識した授業づくり



鹿児島県 十島村立悪石島小・中学校

森木 かずえ 先生

Kazue Moriki

2020年度から全面实施される小学校の学習指導要領では、3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語科が導入されます。今年度から2年間の移行期間中にすべきこととは何でしょうか。この連載では、新学習指導要領に向けて、実践を積んでいる小学校の先生方の取り組みを紹介します。第2回は、鹿児島県十島村立悪石島小・中学校の森木かずえ先生の実践です。離島の極小規模校である同校では、どのような言語活動を取り入れているのでしょうか。

身近な題材を、自分のこととして捉える場の設定

私は「2017年度 英検 英語教員海外研修」に参加し、2週間にわたるオーストラリアでの研修を通じて、講師陣からは、子供目線での授業づくりの大切さを、志を同じくする仲間からは、授業をより活性化させる技を学びました。身近なことや生活体験で起こり得ることを授

業に盛り込み、自分のこととして考えられる場の設定をすることで、「それ、分かる!」「もっと知りたい!」といった自然な反応が芽生えることを、学ぶ立場に立つことで実感することができました。

また、やり取りをするなかで、「そうなんだ!」「なるほどね」と気付いたり、発見した

りする素晴らしさを実感する授業こそ、心に残るのだと思うようになりました。子供同士、あるいは子供と大人の間でのコミュニケーション活動が、普段の「自然な」英語で、型にはまらず「自然に」反応し、「自然と」英語を学びたいと思える内容になることを意識して授業づくりに取り組んでいます。

子供と大人がともに楽しめる授業づくり

極小規模校である本校では、他校とのテレビ会議システムによる合同授業や、島を訪れる外国人観光客との交流などを通じ、子供たちが英語を好きになるきっかけとなるような授業づくりを行っています。海外研修後に取り組んだ実践を2つ紹介しましょう。

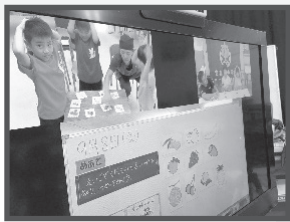
実践1 テレビ会議を活用したコミュニケーション活動

この実践では、相手校（在籍2人）とテレビ会議システムによる合同授業を行いました。他教科では意見交流や練り上げ活動はしてきたものの、テレビ会議システムを使ったコミュニケーション活動がうまくいくのか、どの場面でICTを効果的に使えるのかなど、不安だらけでした。

「好きな色なあに?」の導入では、あえて映像やイラストを使わず、目を閉じ、「雷雨」や「雨上がりのしずく」の音源のみを使用して「音」に集中させました。聴覚的にその場面を想像させるためです。目を開けた瞬間、教師が実際にさしていた傘を閉じ、空（黒板）を指さすと虹があるという場面を示すことで、子供になじみのある虹から「色」の単語を引き出しました。

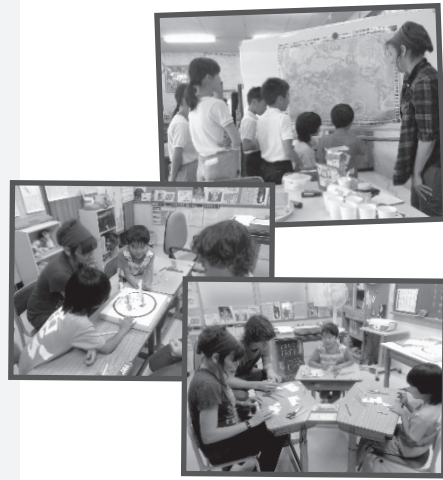
展開部分では「タッチングゲーム」を行いました。①リズムに乗って“When I say red, you touch red.”の表現を聞く、②redと言う、③その色の物を探しに動く、という活動です。単に黒板に貼られた色のカードを指さすのではなく、室内にある物から探し、それを画面の向こうの友達と紹介し合うというやり取りにつなげることもできました。子供たちは目を輝かせて、色を探し出せた達成感を味わうと同時に、伝え合うことを通して相手校のことを知ることもできました。

最後には新教材『Let's try! 1』のUnit 4「I like blue.」からヒントを得て、次のような活動に取り組みしました。両校合わせて児童5人、教師2人の計7人。自分の好きな色を虹の1枠に塗ったあと、「What color do you like?」と自分以外の6人が選んだ色をそれぞれ尋ね、「I like ...」と相手が答えた色を塗っていき、虹の7色を埋めます。自分の考えと比べながら相手の考えを聞き、「私もその色が好き」「〇〇さん/先生は〇〇色が好きなんだ」と、相手を知る喜びも感じられたようです。ちょっとした場の工夫で、子供たちと教員がともに楽しみながら「自然と」学びたくなる活動に変身した実践になりました。



実践2 観光客こそ貴重なGT人材

ある日、島内の温泉で、珍しく外国（ドイツ）からの観光客の方と出会いました。子供たちは、年に3回のみALTとの関わりを除いて、なかなか外国の方と交流する機会がありません。その観光客の方は旅行で来島しているとのことでしたが、母国や旅した国々のことについて学校で話をしてほしいとお願いしました。すると、快諾してくださり、翌日にはその方が持っていた写真データをパソコンでまとめて、日本との違いを織り交ぜながら子供たちの興味を引き出す話をしてくださったのです。その後もドイツ語でじゃんけんをしたり、歌を歌ったり、数の数え方を教えてもらったり、体育の授業で「だるまさんがころんだ」をドイツ語バージョンで挑戦したりと、子供にとってはわくわくするような活動が盛りだくさんでした。日本語とも英語とも異なるドイツ語の音に、子供たちは目を丸くしていました。この驚きこそ、興味関心そのものです。カードゲームの『UNO』にもチャレンジしました。それまでに取り組んだ「色」や「数字」を英語で振り返ることができ、「相手に伝わった!」「相手の言うことが分かった!」と大満足の活動となりました。道端で出会って“Have a nice day.”で終わらず、その人やその人に関わる地域や国のことを知りたい、という思いをぶつけてみてよかったと感じました。



また、オーストラリアからの観光客の方々にもGT（ゲスト・ティーチャー）として出前授業をお願いしました。「食文化」をテーマにした授業で、オーストラリアならではの食べ物「ベジマイト」を目の前に、子供たちはじっと眺めたり、匂いを感じたり、実際に食べてみたりしました。子供たちは生まれて初めての味に驚きを隠せない様子で、「お味噌みたい」「塩辛い」といった素直な感想が出てきたり、「これは何からできているの?」と素朴な疑問をぶつけたりして、興味津々な様子でした。GTからの“You like it?”の問い掛けに対し、自然に「No. 好きじゃない」と反応する子供の姿に、これこそが「自然なやり取り」だと感じました。そのうちに、子供たちから「自分たちもGTに何かを教えたい」との気持ちが芽生え、1年生の図工の「チョキチョコカざり」で取り組んだ紙相撲を作って対決することになりました。試行錯誤しながら作り方を教えようとしたり、相手の言いたいことを何とか理解しようとしたりする必然性があるやり取りのなかで、この一生懸命さこそが、コミュニケーション活動の原点だと強く感じたひとときでした。



「学び人」の気持ちを忘れずに…

大人は分からないことや知らないことをなかなか周りに尋ねようとしません。知らないことがカッコ悪い、間違ったら恥ずかしいと思うからでしょうか。毎日子供たちと接することを通して、これだから大人（自分）はなかなか成長しないんだなと感じています。今は「ちょイング（ちょこっとEnglish）」を日々心掛けていますが、今年度3年生になった子供たちからは、これまで以上に“What's ... in English?”という質問が多くなってきました。分からないことを英語で尋ね、それを意欲的に使おうとする活用力には本当に感動します。コミュニケーションを通して、子供が自分のこととして考えるからこそ出てくる質問です。

5、6年生の担任とは、新教材『We can!』の活動内容が、学年に子供が1人または2人しかいない本校の実態に合うかどうか、あるいは、子供とともに楽しんで活動するためにはどうしたらよいのかを話し合うこともしばしばあります。そんなときに、「自分が子供の立場なら…」という「学び人」として、お互いの経験や情報を交えて考えるようになりました。また、小中併設の本校は、今年度英語専門教諭がいません。そのため同村内の英語教諭に尋ねたり、テレビ会議を活用して授業実践の課題や成果について情報交換したりする時間が増えました。充実した授業をめざすのはもちろんですが、子供たちの英語に対す

る「好きのレベル」を、中学校でもそのままち続けてほしいという強い思いがあるからです。中学校、高等学校へとつながる、英語に対する自信の積み重ねがあれば、子供は「自然な」英語表現で、「自然に」反応し、「自然と」英語を学びたくなると思うのです。同様に、私自身も「分からないことをそのままにしない」「英語を楽しむ」「コミュニケーションの面白さを感じたい」という、「学び人」としてのプラス思考をもちたいと思います。教員同士でお互いのもつ技や知恵を伝え合う研修の機会を設けること、そして、まずは私たち教員が外国語活動を楽しむことが、これから何より必要なことなのかもしれません。

英検 2 級・準 2 級・3 級 ライティングテストを活用した 発信力の育成

Write more. Write well. Write it right!

第2回

準 2 級ライティングテストから

教員研修などで、「私は、高校でも大学でも、まして中学校ではまとまった文章を書くライティングも経験しないまま教員になりました。自分が習っていないことを、どのように教えていったらよいのか不安です」という声がよく聞かれます。この連載では、そうした先生方に向けて、「大丈夫！ライティングは難しくないですよ。楽しいですよ」ということをお伝えしていきたいと思います。今回は英検3級ライティングテストを取り上げましたが、今回は、準2級ライティングテストについて習熟し、その方略を身に付けましょう！

大井 藤子 (おおい・きょうこ)

清泉女子大学文学部英語英文学科教授。東京大学文学部英語英米文学科卒、New York 州立大学 Stony Brook 校大学院言語学科博士課程修了。博士（外国語教授法）。専門は英語教育、応用言語学、クリティカル・シンキング。特にライティング能力の習得に関し、認知面と文化的背景という観点から外国語としての英語のライティング教育の構築をめざしている。

めざすのは「和文英訳」ではない

最近の機械翻訳の技術はまさに日進月歩で開発が進んでいて、先日の新聞にも、音声翻訳機『POCKETALK（ポケットーク）』がいかに外国人とのコミュニケーションに力を発揮しているか、という記事がありました（朝日新聞2018年4月19日付朝刊）。まさにドラえもんの夢の道具の1つ『ほんやくコンニャク』が現実のものになりつつあるということでしょう。私自身も昨年9月16日に東京大学で開催された「機械翻訳と第二言語ライティングー有益なツールか深刻な脅威かー」というコロキウムに参加しました。そこで、Google 翻訳が精度を上げたこと、そして、日本でも国を挙げて情報通信研究機構を中心に翻訳技術の向上に注力していて、情報通信研究機構が開発に取り組む多言語音声翻訳アプリ『VoiceTra（ボイストラ）』は、TOEIC 900 点以上のスコア保持者と同等以上の和文英訳の能力があるという説明を聞いて驚いたことは確かです。そうすると、「英語のライティングなんて機械に任せただ方がよいのでは？」という考えをもつ人がいるかもしれません。いえいえ、それは間違っています。翻訳技術の向上により、日常会話レベルのことはもはや機械が、あっという間に、正確に訳してくれる時代になりつつあることは確かです。しかし、その「正確に」ということを判断する能力を、機械の使用者が有していなければならぬことは明白です。それに、「英語ライティング」でめざすものは「和文英訳」では決してありません。自分で考えを生み出し、そしてそれを正しく、有効に英語で伝えることこそが「英語ライティング」なのです。

そこで、今回は英検準2級のライティング問題に取り組んでいきましょう。

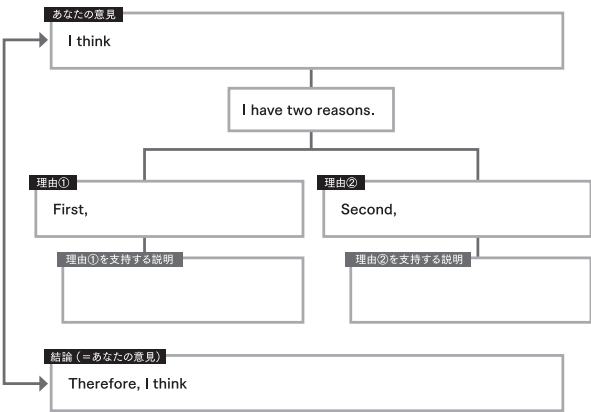
準 2 級のライティング課題とその取り組み方

では、前回に引き続き、英検ウェブサイトで公開されている教材「Dr. Write の英検準2級ライティングテストに挑戦!」を参考に、ライティング課題への取り組み方を考えてみましょう。

- あなたは、外国人の知り合いから以下の QUESTION をされました。
 - QUESTION について、あなたの意見とその理由を2つ英文で書きなさい。
 - 語数の目安は50～60語です。
- QUESTION:** *Do you think students should take part in club activities at school?* (以下略)

ここでお分かりのように、3級のライティング課題と同様に、求められている問いに対する自分の意見を書くという、text type としては「意見文」となります。ただ、求められている語数が**50～60語**となります。単に長くなるのかというとそうではなく、より説得力のある「意見文」にする必要があります。独りよがりの理

由をただ述べるだけでなく、読んだ人が「なるほど」と思われるように、説得力のある文章が求められています。そのためには、自分で考え出した理由がより多くの人に「なるほど」と思ってもらえるような理由を支える支持文を付け加えることです。Dr. Write の教材では、次のような図を出して、準2級で求められる構造を示しています。



この図でも分かるように、3級との違いは、2つの理由それぞれに具体例が付与され、それにより理由がしっかりと支持されているということです。解答例を見てみましょう。

I think students should take part in club activities. I have two reasons. First, students can make friends. For example, I met many nice people when I joined the art club. Second, they can become healthier. If they join a sports team, they will exercise every day. Therefore, I think they should join club activities.

1つ目の理由の「友達を作ることができる」に対して、個人的な例示ながら、「自分が美術部に入ったらたくさんの友達ができた」という一例を述べています。2番目の理由として「より健康になる」という一般的見解に対し、「運動部に入れば毎日体を動かすことになる」という支持文を入れることで、**よりかみ砕いて**理由を支える役割を果たしています。このような理由のあとに置かれた支持文の存在により、読み手により良く自分の理由が了解されるわけです。

こうした意見文の課題というのは、YesかNoかの position taking（立場の表明）を要求するもので、ときとしてどちらの立場を取るのが良いのだろうかと悩んでしまうこともあるかと思います。例えば、Dr. Write の教材にもあるように、“Do you think students should use electronic dictionaries at school?” という題が出た場合、次のような方略を用いて自分の意見を表明します。

1. Yes の立場を取るとすると⇒「電子辞書を使うべき」理由を、思い付く限り書き出す。
2. No の立場を取るとすると⇒「電子辞書を使うべきではない」理由を、思い付く限り書き出す。

Yes の理由	No の理由
・分からない単語をすぐに引くことができる ・持ち運びが便利 ・	・値段が高すぎる ・英語学習に有効か? ・

3. そのうえで、説得力のある理由を多く思い付いた方、または英語にしやすい方を**自分の立場とする**。

上記の図に当てはめて、理由やその具体例を書き、続けて文章にしてみましょう。そして書いた文をチェックする際の評価基準は、以下のように、準2級も3級のライティングと同じです。

- ①内容：課題で求められている内容（考えとそれに沿った理由）が含まれているかどうか。
- ②構成：英文の構成や流れがわかりやすく論理的であるか。
- ③語彙：課題にふさわしい語彙を正しく使えているか。
- ④文法：文構造のパリエーションやそれらが正しく使われているか。

注意点

3級と同様、①の内容で、課題で**問われていることを答えていない**ような文章ですと、0点になってしまう可能性があるので、気を付けなくてはなりません。次の例は冒頭の“Do you think students should take part in club activities at school?” という課題のもとに答えたものです。どの点が良くないのかを考えてみましょう。

I think schools have lots of clubs. However, my school only has a badminton club, a basketball club, a volleyball club, and a table tennis club. I wanted to join a rugby club, but there wasn't one. I joined the tennis club, but it is very difficult. I am very sad.

確かに、この文章では自分の学校のクラブ活動について言及し、クラブ活動に対する自分の思いの丈を述べているとはいえ、“Do you think ...?” の問いで尋ねられていることについての意見表明はありません。その問いに対する自分の意見表明（Take a position!）をまず行い（つまり、Yes/No でまずは答える）、そして、その意見の理由とそれを具体的に支える支持文が続くという構成にしなければなりません。

おわりに

このように英検のライティング課題を利用して、身近にある問題に対して自分はどうか考えるのか、そして自分の意見をより多くの人々に納得してもらうには、どのように文章を構成していったらよいのかと考えを深め、整理していくことは、人間にしかできない営みであると私は思います。その力を英語のライティングを通して培っていただきたいと願っています。



外部検定利用入試は 受験生のチャンスを広げる入試方式

大学入試でTEAPを活用した3人の大学生たち。高校在学中はどのように英語4技能を高めて大学入試に臨んだのだろうか。
また、大学入学後は、どのように英語学習に取り組んでいるのだろうか。外部検定利用入試や英語学習への取り組みについて、
英語講師の安河内哲也先生と学生たちが語り合った。
(文中敬称略・学年は取材当時)



吉岡 和輝 さん
明治学院大学
経済学部 経営学科
1年生

本溜 優衣 さん
中央大学
経済学部 公共・環境経済学科
1年生

松本 夏美 さん
早稲田大学
文学部文学科
1年生

安河内 哲也 先生
一般財団法人実用英語推進機構
代表理事。東進ハイスクール、東
進ビジネススクール英語講師。文
部科学省「英語教育の在り方に
関する有識者会議」委員を務める。

大学によってさまざまな 「外部検定利用入試」

安河内 皆さんは高校時代、英語は得意科目でしたか？

松本 比較的得意な方だったので、外部検定利用入試だけでなく3教科入試も受験しています。というも、外部検定を利用して出願すると、入試の英語試験が免除され、得意な英語で点数を稼げなくなると思ったからです。

安河内 2つの入試方式で受験したのですね。

松本 はい。でも実は、英語で点数を稼ごうと思っていたのに、3教科入試では思ったほど英語の点数が伸びず、最終的には外部検定利用入試で合格できました。

安河内 TEAPが功を奏したのですね。吉岡さんはなぜTEAPを受験しましたか？

吉岡 僕は英語が苦手でした。だから、入試で1回限りの試験では不安に思い、TEAPなら何回も受験チャンスがあるし、基準スコアをクリアできれば出願できるのであれば、合格の可能性が広がるのではないかと思いました。



安河内 なるほど、チャンスが広がるから受けたのですね。英語が苦手と言っても、得意な分野はあるでしょう？

吉岡 リスニングは得意な方です。幼い頃から英会話教室に通ってきたので、英語を聞くことには慣れています。その反面、ライティングは苦手です。単語のスペルなどしっかりと覚えられていなくて、ちょっとしたミスが多いですね。

安河内 単語がイメージできても、LかRか迷ったり？

吉岡 はい、そういったニュアンスがあまり得意ではないです。

安河内 本溜さんはどうですか？

本溜 私は幼少期に海外生活を送り、現地でインターナショナルスクールに通った経験があるので、話したり聞いたりすることは得意です。でも、大学入試問題のような英文を読むのは苦手です。TEAPのリーディングも内容が難しく感じました。

安河内 TEAPはアカデミックな英語力を測る試験なので、大学の講義や学術内容などは、慣れていないと難しく感じるかもしれませんね。リスニングやライティング・スピーキングでは得点できましたか？

本溜 そうですね。私の場合、4技能のうち、特に得意なライティングで苦手なリーディングを補って、トータルスコアを上げました。私が利用した外部検定利用入試では、技能別スコアの合計、トータルスコアのみを求めていたので、得意な技能でほかをカバーすることができました。



4技能を統合的に使って 英語力アップ！

安河内 大学や学部によって、スコア利用の仕方はさまざまなので、自分が有利な方法を調べて受験するということも戦略としては大事ですね。でも、TEAPのライティングテストにも、リーディングの要素が含まれていませんか？

本溜 文章を読んで要約するという問題でしたが、不要な情報を削って、残った英文からまとめていったら書けました。

安河内 具体例などの不要な情報を省いてトピックだけを残し、パラフレイズするという方法ですね。サマリーの書き方として、それは正しい方法ですよ。松本さんは苦手な分野はどのように取り組みましたか？

松本 TEAP実践問題集のスピーキングで使われるフレーズ集を、声に出して読んでいました。

安河内 音読しながら暗唱したのですね。TEAPを受験するには語彙力も大切ですが、皆さんはどのように学習してきましたか。

松本 大学入試用の単語集を使いまし

た。1日300～400語を覚えて、友達と夜に電話で問題を出し合うなどしていました。

安河内 単語だけ覚えてもTEAPの問題には対応できないと思いますが、単語集の例文も使って覚ええましたか？

松本 はい、使いました。例文があると覚えやすいです。

吉岡 TEAPの単語は、大学受験用の単語集に載っているものと少し違いますよね。だから、専用の単語集を使ってひたすら音声を聞いて、例文を読んで、声に出して覚えていきました。

安河内 TEAPでは大学の授業や学生生活に必要な単語が使われるので、そういった特有の単語を覚えておく必要もありますね。

本溜 私は単語集で単語だけを覚えようとしても覚えられないので、TEAPの実践問題集を解きながら、文章のなかで、その単語がどのように使われるのかを知ると勉強の仕方でした。

安河内 3人に共通するのは、耳から聞いて、声に出して、例文も使って覚える、ということですね。英語はそのように技能を統合して使うと身に付きますよ。

入学後の英語学習と 将来の目標は？

安河内 大学に入学してからも、英語学習を続けていますか？

松本 1年生の時は第二外国語が週に4時間あり、そちらに時間を費やしてい

たので、英語から遠ざかっていました。2年生からは、また少しずつ英語に触れるとともに、これまで苦手だったリスニングとスピーキングの力を付けたいと思っています。

吉岡 大学の授業だけでなく、英語の資格・検定試験を受けようと思っているところです。

本溜 今、履修している授業はリーディング中心なので、自分から話そうと意識していないと、まったく英語を話さずに1時間が終わってしまうこともあります。だから、できるだけ挙手して質問するなど、自分から話す努力をしています。

安河内 皆さんは将来、海外で仕事がしたいなどの目標がありますか？

本溜 具体的な仕事はまだ分かりませんが、いつか海外で働いてみたいです。

吉岡 まだ仕事で英語を使うというイメージはないですが、在学中にいろいろな国を旅してみたいです。

安河内 いいですね。ぜひ行って、いろんな経験をしてください。

TEAPで合格の可能性を 広げよう！

安河内 最後に、TEAPを受験する高校生に向けて、アドバイスを。

松本 英語が得意でも苦手でも、TEAPは絶対に受験した方がいいと思います。受験勉強は大変で、TEAPの勉強もするなんて大変だと思うかもしれませんが、私がそうだったように、TEAPのスコ

アがあれば、合格の可能性が広がりますから。

吉岡 僕もTEAPを有効に利用した一人です。大学によって外部検定利用入試の方式は違うので、しっかりと調べて、自分に合った方式を見つけてください。TEAPに向けて勉強したことは、入試に限らず大学入学後も必ず役に立ちます。

本溜 とりあえずTEAPを受けてみてください。そのうえで、自分のスコアが活用できるなら、外部検定利用入試を受験の選択肢の1つとすることもできます。

安河内 TEAPは高等学校で学んだことや、大学での学びにつながる内容が出題され、英語のレベルも英検準2級～準1級程度なので、大学入試との親和性が高いものです。センター試験では点数が取れても、大学独自の試験は難しいと感じている人にはちょうどいいレベルだと思います。英語力を高めるには、4技能をバランスよく学習することが大切です。それが結果的に、入試のリーディングやリスニングの問題にも対応できる力になりますし、総合的に英語力を高めることにつながります。皆さん、これからも英語学習をがんばってくださいね。



英語教育セミナー

in 東京 2018

小学校で英語教育に携わる先生を対象に初開催

新学習指導要領への移行期間において、小学校での英語教育はいかにあるべきか。公益財団法人 日本英語検定協会（英検協会）は、小学校で英語教育に携わる先生方を対象とする「英語教育セミナー in 東京 2018」を今年3月、東京都千代田区のヤフー株式会社内のセミナールームにて開催した。

特別講演

これからの英語教育で
大切にしたいこと

新しい学習指導要領を踏まえて

琉球大学教育学部 大城賢教授

沖縄の方言でのあいさつから講演が始まった。主な柱は「明確な目標設定の大切さ」「主体的・対話的で深い学びにおける言語活動の定義」などだ。大城教授はまず、小学校の外国語活動の成果として「子供たちが相手の話すことを聞こうとする姿勢が育っていること」を挙げ、「相手が一生懸命聞いてくれば、話す側もうれしく、相手に分かりやすく自分の考えや気持ちを伝えようとする姿勢が育まれます」と述べた。そして、外国語の学習は言葉の学習であり、言葉には自分の考えや気持ちを伝える役割、人と人をつなぐ役割があること、教室は言葉を学ぶ場であって、実際に使う場であること…などを大切にしたいと強調した。

また、「新学習指導要領でも記述があるように、小学校の外国語活動では、子供たちは友達と関わり合い、やり取りを通じて友達や自分の良さを再認識し、他者理解や自尊感情が育まれます。また、外国語科では、相手の話を注意深く聞いて、相手の思いを理解しようしたり、自分もっている知識を活用して自分の思いを伝えようとしたりする体験を通じて、コミュニケーションの難しさや大切さを感じる事が重要です」と説いた。学習指導要領は、「学びの地図である」と語る大城教授。「小学校の先生だけでなく、専科教員、指導主事、中学校や高等学校および大学の先生、教科書会社、そして保護者まで、みんなが同じ地図を見ていることが大切です。小学校では学級担任や専科教員、ALT、JET、地域人材など多様な人が関わります。関わる人が増えるほど、この学びの地図が重要なのです」と述べる。

そして、新学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」についても触れ、それぞれの学びに共通して求められることは「コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確に設定すること」であるとし、「言語活動は目的・場面・状況に応じて行うものであり、学習指導要領では、言語活動とは『実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動を意味する』と再定義しています。高学年で教科化されることによって、読むことや書くことが導入されますが、考えや気持ちを伝え合う要素がない活動、例えば、発音練習や機械的に英語の文字を書く活動などは、言語活動ではなく練習です。練習だけで終わることがないように留意する必要があります」と強調した。



初開催の小学校教員向けセミナーに 全国から参加者が集まる

英検協会は、英語科教員の英語力や指導力の向上に寄与すべく、英語教育に携わる教員や教育委員会などの関係者を対象に、国内外でのさまざまな研修の機会を設けている。「英語教育セミナー in 東京」はこれまで、中学校や高等学校の教員を対象として開催してきたが、小学校教員を対象とした開催は、今回が初めてだ。小学校における英語教育の最新情報や、具体的な実践事例を求

めて、小学校教員や教育委員会関係者などが全国から集まった。

まず主催者を代表して、英検協会の戸田朋宏常務理事があいさつした。「近年の実用英語技能検定（英検）受験者増加の背景には、大学入試における外部資格・検定試験の活用が進んでいることがある」と説明し、「また、2017年度の小学生の受験者数は31万5,000名に達し、小学校に外国語活動が導入された2011年度当初の22万人から比べて約1.5倍に増加

「グローバル時代を迎え、教員に求められるのは、英語力の育成というより、コミュニケーション能力を育成すること。これまでの教育で重視された『知識・技能（何を理解しているか）』の習得だけでなく、習得した知識を『いかに活用し（思考力・判断力・表現力）、どのように社会や人と関わるか（学びに向かう人間性）』も育成していかなければなりません」と、冒頭でまず、新学習指導要領で育成をめざす三つの柱について確認した吉田特別招聘教授。そして、「主体的・対話的で深い学び」が必要な理由を「発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習などを通じて、児童生徒が自分の考えや気持ちなどを表現することは、将来、英語でコミュニケーションを行う際の基盤となります。また、児童生徒の心理的障壁を取り除くにも有効です」と説明した。

平成29年度の文部科学省の調査では、中学卒業時点で英検3級を取得している生徒の割合は、国が掲げた目標の50%に届いていない。「英語で授業を行っているのに、なぜ英語力が上がらないのでしょうか」と、会場に投げ掛ける吉田特別招聘教授。そして、中学校の授業では、音読・発音・文法説明・練習などが大半を占め、生徒の思考力・判断力・表現力は育っていないと指摘した。「小学校では活動中心の授業を進めていても、中学校では知識・技能の習得にとどまり、知識を活用して初見の英文を読んだり、サマリーを書いたり、自分の考えを話したりといった、思考力・判断力・表現力を育む言語活動が十分に行われていない現状があります。授業では、思考力・判断力・表現力を磨くために必要な知識・技能を習得し、活用することができるよう、具体的に言語活動を盛り込む必要を改めてご理解いただきたい」と主張した。

また、今回の新学習指導要領では、小・中・高等学校の接続を意識した指導が必要だとし、4技能5領域でどのような指導が求められるのかを、学習指導要領から共通する事項を取り上げて紹介した。そして、言語は技能別に指導するのではなく、読んで書く、聞いて話すなどの技能統合型で指導することの重要性を示した。さらに、大学との接続についても話題はおよび、2020年度から導入される大学入学共通テストをはじめとする「大学入試改革」において、英語の4技能の総合的な評価が求められることに触れ、「今回の英語教育改革は、学習指導要領の改訂や高大接続改革など、小・中・高・大が初めて1つの軸を持って進んでいます。お集まりの先生方には、小学校が英語教育の出発点になることを意識して、指導にあたっていたきたいと思います」と呼び掛けて講演を終えた。



基調講演

小学校を起点とした、
小中高の新しい英語教育

上智大学言語教育研究センター長
吉田研作 特別招聘教授

実践発表

みんなで考えよう！小学校英語アクティビティ

今回のセミナーでは、実際に小学校で外国語活動を実践している先生方3名による発表が、参加者の興味を引いていた。
明日からの授業づくりのヒントになりそうな、誰にでも実践できるアクティビティの提案だった。



広島県 広島市立戸坂城山小学校
戸井 一宏 先生



神奈川県 横浜市立笹山小学校
加良 幹宏 先生



東京都 狛江市立緑野小学校
今西 佑 先生

英語教員海外研修での 学びを生かした実践

戸井先生、加良先生、今西先生はいずれも、英検協会による「2017年度 英語教員海外研修」に参加し、オーストラリア・シドニーのニューサウスウェールズ大学で第二言語習得理論に基づいた指導の研修を受けた。

3名の先生は、研修で学んだ内容として、英語初学者向けのアクティビティには、歌やチャンツ、絵を描いたり色を塗ったりすること、指人形などを作ること、絵や文字のカードを使ったメモリーゲーム、クラス調査などがあることを紹介。アクティビティを組み立てるには、①場面・状況設定 ②説明 ③見本 ④確認 ⑤アクティビティ ⑥フィードバックの順で行うことが必要であり、なかでも①場面・状況設定の重要性を説明する。場面・状況設定においては、児童を引き込むこと、知的好奇心を引き出すこと、必然性のある活動をつくる必要があり、そのためには、本物の教材を使用することも大切だと述べた。こうした研修での学びを、帰国後の半年間でできることから取り入れ、創意工夫を凝らして授業づくりをしているという。

今回発表したアクティビティは、「どの子も楽しめる」「準備があまりいらない」「誰にでもできる」を大切にしたい内容だった。小学校3、4年生の新教材『Let's Try!』の各ユニットに関連したアクティビティの提案で、参加者は児童役となって、ペアやグループを組んでさまざまなアクティビティを体験した。

どの子も楽しめ、準備があまりいらない、 誰でも実践できるアクティビティを提案

じゃんけん自己紹介

グループをつくり、全員でじゃんけんをして、全員が出した指の数の合計を英語で言う。年度初めの時期に、Ice Breakingの活動として有効。



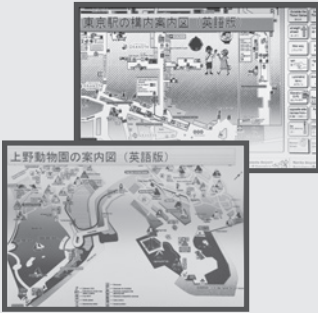
Destiny Game

ペアで背中合わせに立ち、“What animal do you like?”と声を合わせて言い、“3, 2, 1”の掛け声とともに、“I like ...”と自分の好きな動物を答える。同じ動物を答えたら、“High Ten!”と言って両手をタッチし、違う答えだったら、“Sorry, Bye!”とペアを交代して、再び活動する。animalは別の言葉に置き換えることも可能。



Shopping Game

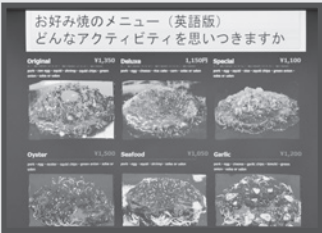
店員役と買い物客役に分かれて、Shopping Listを持って活動する。まず、買い物客役の児童は、リストから自分が買いたい商品を3つ選んで丸を付けて、店に買い物に行く。店員役の児童が“What do you want?”と尋ねると、買い物客役の児童は、自分が必要な商品を3つ答える。店員役の児童は、聞き取った商品について、リストの「サイン欄」に自分の名前を書いて手渡す。



実際の地図や料金表なども教材として用いることができる。

お好み焼きのメニューを使って アクティビティを考える

ひと通りのアクティビティを紹介したあとは、参加者同士でグループを組み、お好み焼きのメニューを使って、どのようなアクティビティをつくることのできるのかを考えた。



参加者からは、「材料のフラッシュカードを作り、グループごとに自分たちが作りたいお好み焼きを決めて、ショッピングリストを持って食材を買いに行き、必要な材料をそろえる」「お好み焼き屋さんとお客さんの役に分かれて、何を食べたいのかや金額を尋ね合う」「グループで1人が自分の食べたいお好み焼きを決め、ほかのメンバーにヒントを出して当て合う」「3人グループで所持金3,000円



のなかで、どのメニューを選べばたくさん食べられるのか、計算したり交渉したりする」などといったアイデアが発表された。いずれも、必然性のある場面や状況を設定したアクティビティだった。

最後に、3名の先生方は「今日皆さんと一緒に体験したように、外国語活動にはいろいろな先生方がアイデアを出し合って、授業をつくっていくことができる良さがあります。一人で抱え込んで大変な思いをするのではなく、ぜひ、周りの先生方の協力を得て、単元に合ったアクティビティを考え、実践していきましょう」とメッセージを送った。



フロアディスカッションでの 参加者との質疑応答より



セミナーの最後は、フロアディスカッションが行われた。参加者は4、5名ずつのグループでセミナーの感想や日頃の授業の実践や課題などについて話し合い、その内容を全体に発表した。参加者の意見や質問へのパネリストたちの回答を紹介する。

コーディネーター：新潟県 新潟市立新津第一中学校 教頭 小林 英男 先生
パネリスト：茨城県 笠間市教育委員会 学務課 指導室 指導主事 入之内 昌徳 先生
パネリスト：広島県 広島市立戸坂城山小学校 戸井 一宏 先生
パネリスト：神奈川県 横浜市立笹山小学校 加良 幹宏 先生
パネリスト：東京都 狛江市立緑野小学校 今西 佑 先生
(肩書きは取材当時・文中敬称略)

学級担任の研修機会をどのように増やしていますか？

加良 横浜市では、担任を中心とした指導体制が整い、AETや英語専科教員が授業づくりに携わり、区や市の研究会で授業力向上の実践的な研修を行っています。また、教育委員会の指導主事の先生が各校を回って研修を行っています。

移行期間の時数確保はどの程度行いますか？

今西 本校ではモジュール学習や土曜授業も取り入れて、3、4年生で年間35時間、5、6年生で年間70時間という最大時間を確保しました。ALTは年間で50日間来校して、TTなどに入っています。

どのような教材を使って授業を進めればよいのですか？

戸井 小学校の外国語活動で活用できる教材はたくさんあります。ただ取り入れればよいのではなく、実際に子供たちと一緒に活動したうえで、必要に応じて教材を使うなど、教材ありきではない意味のある活動を行うことが大切だと思います。

ALTとはどのように連携していますか？

今西 6年生担任と英語担当はクラブ活動の担当から外してもらい、その時間を使って打ち合わせをしています。そして、決まった内容を授業当日の朝、ALTにお伝えするという流れです。

子供同士でのやり取りを続けるための工夫とは？

戸井 必然性のある場面・状況設定をすることで、会話は自然に続きます。必要な情報を全て与えてしまうのではなく、子供たちが知りたい、聞きたいことを尋ね合うことができるようにすることも必要です。

平成29年度 実用英語技能検定 成績優秀者・優秀団体表彰式を開催

今年3月26日、東京都港区のANA インターコンチネンタルホテル東京にて、「平成29年度 実用英語技能検定（英検）成績優秀者・優秀団体表彰式」が開催された。表彰式では、平成29年度の第1回から第3回検定において、特に優秀な成績を収めた個人と団体の荣誉がたたえられ、全国から集まった受賞者たちは、大きな祝福の拍手に包まれた。



**各国の駐日大使からも
お祝いメッセージが届けられる**

公益財団法人 日本英語検定協会（英検協会）は「英検 成績優秀者・優秀団体表彰式」を毎年度末に開催し、その年度中に実施した実用英語技能検定（英検）の第1回から第3回検定における成績優秀者と優秀団体を表彰している。表彰式では米・英・加・豪の大使賞などの各賞が授与され、各国の大使や公使がお祝いのビデオメッセージを贈った。

まず、ウィリアム・F・ハガティ駐日米国大使がビデオメッセージを通じ、「英語力は、国や地域を超えて活躍するチャンスをもたらします。英語力向上への挑戦を続け、今後もがんばってください」と、英語習得が活躍の幅を広げると続いた。続いて、ナディア・ブルジェー在日カナダ大使館首席公使もビデオメッセージで、「英語習得は、将来のキャリア構

築のためにも有効です。カナダと日本は、これまで英語学習における多くの機会を創出してきました。ぜひ、皆さんもカナダ留学をしてください」と語った。リチャード・コート駐日オーストラリア大使もビデオメッセージを寄せ、「英語習得は人生にも素晴らしい影響をもたらします。オーストラリアには多彩な文化の宿る豊かな社会があり、素晴らしい学習環境が整っています。ぜひ、留学の場として考えてみてください」と語った。

臨席したマット・バーニー ブリティッシュ・カウンシル駐日代表・英国大使館文化参事官は、「ブリティッシュ・カウンシルと英検協会の絆は深く、ともに日本における英語教育の質向上に努めてきました。英検は国際社会で通用する英語スキルを測定できる重要な検定であり、日本の国際化に多大なる貢献をしてきました。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが行われますが、英語習得に努力する皆さんは、世界市民として世界の平和に貢献してほしいと思います」と、2020年のビッグイベントへの期待も込めつつ祝辞を述べた。

**英語を武器として、日本の成長に
貢献する力へと育てほしい**

個人の部と団体の部の表彰に移った。選考基準は、下表の通りとなっている。

各賞の表彰が続くなか、「文部科学大臣賞（団体の部）」の発表を前に、パナソニック株式会社の樋口泰行代表取締役・専務執行役員からの応援メッセージが上映された。「昔は『英語ができる人は仕事ができない』と言われた時代があります。英語ができると、それ以外の勉強を怠け、英語という強みだけで生きようという人もいたからです。しかし、いまや英語はツールでしかありません。英語ができる人が多い国の経済力は高まる一方で、逆に日本は競争力が落ちてきていると言われます。皆さんには英語を武器に、日本の成長に貢献してほしいと期待しています」と述べた。

同賞を受賞した7団体の表彰に続いて、平成28年度文部科学大臣賞 個人の部1級受賞者の前川凜さんからのビデオメッセージが流れた。「英検で努力が認められたことは、自信につながりました。英検を活用し、英語スキルを高め



ることは自己成長も望めますので、がんばってください」と会場にいる受賞者にエールを送った。

英検で英語を磨き、世界の架け橋に

最後に「文部科学大臣賞（個人の部）」の発表となった。この賞は、すでに発表された「米国大使賞」「ブリティッシュ・カウンシル駐日代表賞」「カナダ大使賞」「オーストラリア大使賞」「日本商工会議所会頭賞」の受賞者のうち、最も英検CSEスコアが高かった方に授与される。

すると、会場の扉が開き、先ほどメッセージが上映された前川凜さんが登場。司会者に受賞者の名前が入った封筒を手渡すというサプライズによって、さらに表彰の場は盛り上がった。緊張に満ちた会場で、一瞬の静寂のなか、1級から3級まで5名の受賞者名が読み上げられると、荣誉をたたえる拍手がわき起こった。壇上に並んだ受賞者たちは、「受賞のアドバンテージを生かし、海外で働きたい」「イギリスで医学を学びたい」など、受賞の喜びや将来の夢について語った。

プレゼンターを務めた文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課民間教育事業振興室の伊佐敷真孝室長は、「英検は、質の高い英語資格・検定試験として社会的に評価されています。平成32年度から実施される大学入学共通テストでは、英語4技能測定のために民間の英語資格・検定試験を活用することになり、英検は大いに活用されるはずです。英検合格をめざして英語力を磨いた方々が、わが国の文化を世界に発信し、世界と日本の架け橋として活躍していただけることを期待します」と語り、表彰式は盛会のうちに幕を閉じた。

平成29年度優秀団体
「ブリティッシュ・カウンシル駐日代表賞」受賞

**クラーク記念国際高等学校
芦屋キャンパス**

川端 梨沙 先生



英語教育が変化する今、英検の役割はさらに大きくなっている

本校は英検の受験会場となっており、以前より英検受験を推進してきました。カリキュラムに「英検対策授業」を設置し、英検前の補講もレベル別に行っています。そのような環境下で、生徒たちも「英検を受験すべき」という意識になりつつあり、受験者は増えています。また、オーストラリアやハワイへの留学にも注力しており、その推薦基準としても英検を活用しています。下位級から段階的に受験させる指導が、今回の受賞につながったのではないかと考えます。受賞の知らせを受けたとき、「生徒がそんなに多く受けて、そんなに合格していたのか」とうれしい驚きが大きかったです。

本校の生徒は英語力の幅がとても広いため、英検受験も5級から準1級と、個々の英語力に応じた指導が必要です。英語が苦手な生徒には、ネイティブの先生と話せるようにしたい、などの興味を引き出し、英語を楽しむことを大切に指導しています。一方、英語習熟度の高い生徒が多いインターナショナル専攻では、ネイティブの教員が英検の指導などを行います。以前、不登校気味の生徒が英検3級の一次試験に合格し、「二次試験の対策講座を開くから学校において」と呼び掛けたら、それがきっかけで登校できるようになったケースがあります。英検の資格取得をモチベーションとしてがんばっている生徒も少なくないと感じています。

大学入試の英語も、また、英語教育自体も変化している今、「英検をもっと活用していきたい」と教員同士で話をしています。英検を通して自信をつけ、世界を広げてくれる人材が増えることを期待しています。

平成29年度優秀団体
「カナダ大使賞」受賞

佐賀県立鹿島高等学校

蟻川 佳史 先生



英語を使える人材を育成することは、地方活性化にも貢献する

佐賀県内の高校2校が、「カナダ大使賞」を受賞させていただいたのは、佐賀大学が外部資格・検定試験を大胆に入試に導入したことが少なからず影響していると思います。それにより、教員も生徒も英検の重要性と存在意義を、さらに意識するようになりました。ただ、本校では佐賀大学の発表以前から生徒の4技能のレベル向上を課題として取り組み、英検を全校生徒受験にすることを予定していました。全員受験の導入とほぼ同時に、佐賀大学の入試改革が発表されたのです。

生徒が「英語を使って自己表現ができる」ことは、現代社会での大きなニーズとなっています。学習指導要領も改訂されます。教員も知識理解から、4技能を使った自己表現のツールとして、生徒が社会で英語が使えるように指導していくことが目標となってきました。

英検はそのために選びましたが、各自の英語力に合う級をめざすことができ、生徒にとっても取り組みやすかったことも理由です。

佐賀県はICT教育が非常に進んでおり、各教室に電子黒板があり、高校生全員がタブレットPCを持っています。生徒のタブレットに英検のリスニング対策の音声配信したり、自分の声を録音したりするなど、ICTを活用したさらなる英語力向上への施策を考えています。また、今後は、英語の4技能の重要性を本校生徒だけでなく、地域の人々に伝えていきたいと思います。本校生徒が英検を全員受験することが、地元の小・中学校の生徒たちに対しても「英語の4技能の習得が重要だ」というメッセージになります。英語を使える生徒を育成することは、これからの地方の活性化にも貢献できるのではないのでしょうか。

〔特別記事〕

全英連滋賀大会に向けて

大会実行委員会×記念講演者 座談会

「Be Active! ～児童・生徒が主体的に学ぶ英語教育～」

「第68回 全国英語教育研究大会（全英連滋賀大会）」が今年11月16、17日に、滋賀県大津市で開催される。グローバル化が進み、国や地域を越えた人と人との交流が活発になりつつあるなか、英語教育が果たす役割を再確認し、新学習指導要領のもとの指導のあり方を示す場となるべく、開催準備が進んでいる。尾中圭大会実行委員長や、実行副委員長などと、記念講演の講師を務める立教大学経営学部国際経営学科の松本茂教授に、大会の見どころについて語り合っていた。〔文中敬称略〕

第68回 全国英語教育研究大会（全英連滋賀大会）

「Be Active! ～児童・生徒が主体的に学ぶ英語教育～」

第1日 2018年11月16日（金）びわ湖ホール（滋賀県立芸術劇場）大ホール

第2日 2018年11月17日（土）ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）、コラボしが21

記念講演：松本 茂 先生（立教大学 経営学部 国際経営学科 教授）

授業実演：平山 美穂 先生（大津市立晴嵐小学校）／関口 真 先生（竜王町立竜王中学校）／川瀬 千津 先生（滋賀県立虎姫高等学校）

分 科 会：32テーマ（小学校6、中学校9、高等学校13、小中連携1、中高連携3）を予定

詳しくは、全英連滋賀大会ホームページ（<http://www.geocities.jp/shigaenglish/>）をご覧ください。

小・中・高等学校が連携して 大会を開催

今回の滋賀大会は、どのような
コンセプトを掲げていますか？

尾中 国や地域を越えた人と人との交流が身近になるなかで、英語教育の果たす役割は大きいと思います。2020年度から実施される新学習指導要領においては、小学校での教科化、中学校や高等学校での言語活動の充実などもあり、これからますます小・中・高等学校の連携が重要となるでしょう。そこで、今大会のコンセプトは「Be Active! ～児童・生徒が主体的に学ぶ英語教育～」としました。子供たちが楽しみながら、自ら英語を発信し、生涯にわたって英語を学び続ける姿勢を育みたいとの思いを込めています。また、スローガンとして「Think! Dare!

Share!」も掲げました。これは「主体的にいろいろな立場から考えよう」「勇氣を出して言おう」「互いを認め合い、支え合い、共感し合う心を持とう。対話を通して相手の意見を聞こう」ということです。

中村 今回の大会は、滋賀県での初開催ということもあり、滋賀県高英研だけでなく、小・中教育研究会部会と一体となって、小・中・高等学校が連携して、大会の成功に向けて動いていることが1つの特色と言えるでしょうね。

高原 小学校は通常、市町村単位で動くことが多いのですが、今回の滋賀大会開催にあたっては、初めて県として教員が集まり、実行委員会に名を連ねることになりました。

尾中 そうですね。小・中・高等学校がスクラムをしっかりと組んで、大会を開催しようということで準備を進めています。

今大会にどのような期待をしていますか？

松本 小・中・高等学校全ての新学習指導要領が公示されて初めて開催される全英連大会ですし、滋賀県はこれまで英語教育において先進的な取り組みをしてきた地域です。そのような意味では、非常に期待を寄せています。また、大会コンセプトにある「主体的に学ぶ」は、新学習指導要領でめざす学力の3要素や「主体的・対話的で深い学び」にも通じるものです。改めて新学習



記念講演の講師を務める松本 茂 先生

指導要領のめざす英語教育の方向性について、参加者が考える機会になれば、素晴らしい大会になるのではないのでしょうか。

尾中 今回、松本先生には、「アクティブ・ラーナーを育てる英語教育」との演題でご講演いただくことになっています。小・中・高等学校の連携が重要であること、児童・生徒が実践的に英語を使い、主体的に学ぶ力を身に付けることを大事にしたいとのねらいがあり、この演題でのご講演をお願いしました。小学校の先生をはじめ、ご参加いただいた全ての先生方に分かりやすくお話いただけると、楽しみにしています。

松本 小学校の先生方のご苦勞は計り知れません。講演では、英語を教えることで、先生と子供たち、子供同士の関係が変わり、ほかの教科にも良い影響が出るような具体的な事例をお伝えできれば

と考えています。小学校ではこれまでも、さまざまな教科において、子供たちが自ら考え、友達と対話し、相手の気持ちをくみ取り、考えを共有する、という活動を多く取り入れて授業をなさっていると思います。外国語活動や外国語科という授業を通じて、改めてそうした活動を意識して行うことができるのではないのでしょうか。

尾中 大会では小学校の先生も授業実演や分科会発表を行います。小学校の先生方の取り組みから、中・高等学校の先生が学ぶことは多いと思います。**中村** 分科会でも小中連携や中高連携の区分があります。中英研としては、「深い連携と滑らかな接続」をテーマに、中学校籍の先生が小学校で実践してきた事例の発表には、ぜひご注目いただきたいと思います。

高原 大津市では、県の研究指定による連携もありますが、県内を見わたして



大会実行委員長の尾中 圭 先生

も、さまざまな市町で小中連携が進んでいます。また、県では小中高系統的英語教育推進事業があり、モデル地域での研究成果を県全域に普及しています。

中村 中英研としては、できるだけ多くの先生方が学ぶ機会を設けようと、中学校同士だけでなく、小学校など異なる校種の授業を参観する機会も用意しています。今後、小・中・高等学校が連携していくうえで、中学校には重要な役割があると感じています。



大会実行委員会 副委員長の中村 隆秀 先生

新学習指導要領を見据えた 授業実演

授業実演の見どころを教えてください。

高原 小学校は6年生の外国語活動の授業を実演します。今年度から移行期間に入りましたので、新教材『We Can! 2』のUnit 7による過去形の表現を使った活動を取り入れた授業を行う予定です。文字を「読むこと」や「書くこと」も活動に取り入れたいと思います。ただし、授業づくりのうえで、一番大切にしているのは、学級担任による学級づくりです。学級担任と子供たち、子供同士の親和関係を

しっかりと築くことができて初めて、授業は成り立つものですから。授業者の平山美穂先生（大津市立晴嵐小学校）は、上手な学級づくりをしていますので、魅力的な授業になるはずです。参加していただいた先生方に、「これならできそう」「やってみたい」と感じていただけるような授業を提案できればと思います。

中村 中学校は3年生の授業を実演します。関口真先生（竜王町立竜王中学校）は、生徒たちを1年生から指導してもち上がってきました。新学習指導要領で示された「授業は英語で行うことを基本とする」を実践しようと、日頃から、生徒の即興的な対話力と発信力の育成をめざした指導に取り組んでいます。できる限り、生徒の言語活動中心の授業となるよう、中英研としても支援しています。竜王町では県の研究指定を受けて、小学1年生から外国語活動を取り入れています。今回の授業実演で舞台に立つ生徒たちは、英語に触れて9年目であり、物おじせず英語を話そうとする姿をご覧ください。ぜひ、町としての英語教育の

成果を見ていただきたいものです。

尾中 滋賀県立虎姫高等学校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）であり、国際バカロレア「日本語DP」の認定を視野に、県教育委員会の研究指定校として、生徒が主体的に考え、思考力を高める授業改善に取り組んでいる学校です。分科会では「虎姫高校で育てたい学習者像を目指した英語指導のあり方」をテーマとしていますが、実演者の川瀬千津先生をはじめ、同校の先生方がどのように連携して指導に取り組んできたか、発表を見ていただければと思います。

松本 いずれも新学習指導要領を見据えた授業実演になりそうで、期待していますよ。滋賀県では、高等学校でのディベート活動も盛んですし、日頃から生徒の言語活動中心の授業づくりを進めていらっしゃるのですね。

尾中 今回の授業実演校以外にも、膳所、米原、守山、高島、石山、近江兄弟社…などの高等学校が、全国高校生英語ディベート大会の滋賀県大会に参加して競い合っています。また、SELHi指定校

だった米原高等学校からは、英語科教員も数多く生まれ、現在の滋賀県の英語教育を支えています。今大会の分科会では、そのような先生による発表もあります。

勝 授業実演はまず、各校の紹介ビデオを上映し、次に、授業者が1分程度、自身の授業についてスピーチをしてから、チャイムが鳴り、子供たちが着席するような流れで開始します。また、授業中の子供たちの言語活動の様子が分かりやすいように、カメラワークも工夫して撮影し、スクリーンで見せる場面と舞台を見る場面とのメリハリをつける予定です。

滋賀県らしさを発信できる大会に

読者へメッセージをお願いします。

尾中 子供たちがアクティブに英語を学ぶとはどのようなことかを示すために、小・中・高等学校の先生方が連携して取り組んでいますので、ぜひ、その成果をご覧ください。また、滋賀県の魅力を知っていただくため、エクスカージョンもご用意しました。比叡

山延暦寺見学、バームクーヘン等のスイーツショッピング、琵琶湖クルーズの3コースがありますので、ご興味があればお申し込みください。

中村 エクスカージョンを主催する日本旅行は、滋賀県草津市発祥の日本初の旅行会社だと、ご存知でしょうか？ 東海道本線草津駅で駅弁を販売していた南新助が伊勢神宮参拝の団体旅行を主催していたのが起源なのです。

小梶 江戸時代から明治時代にかけて活躍した近江商人の経営哲学である「三方よし（売り手によし、買い手によし、世間によし）」は、「売り手と買い手が満足するのは当然のこと、社会に貢献できてこそ良い商売と言える」という考え方ですが、今回の大会では「先生によし、生徒によし、観客によしーの三方よし」を実現したいですね。

中村 今回の大会に向けて、中学校は結束力が高まっています。中学校の分科会は全て、滋賀県内の先生方が発表することになり、どの先生も皆、意欲的です。なかでも、特別支援教育や外国人生

徒のための授業づくりに関する研究発表は、過去の大会ではなかったのではないかと思います。また、中英研として長年取り組んできた「書くこと」の指導についての発表も、ぜひご注目ください。

高原 小学校では「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、これまで長年にわたって取り組んできた、「めあて」の提示にはじまり、子供たちが主体的に言語活動を行い、「振り返り」で評価をして終えるという授業のスタイルを提示したいと思います。

尾中 小・中・高等学校が連携して、新学習指導要領を見据えた授業づくりをしていますので、ぜひご覧ください。多くの皆様のご参加を、お待ちしております。



大会実行委員会 副委員長の高原 透 先生

全英連滋賀大会 実行委員会
事務局長

勝 啓一 先生
（滋賀県立大津商業高等学校）

全英連滋賀大会 実行委員会
副委員長

中村 隆秀 先生
（東近江市立聖徳中学校長）

全英連滋賀大会 実行委員長

尾中 圭 先生
（滋賀県立安曇川高等学校長）

記念講演 講師
松本 茂 先生
（立教大学 経営学部
国際経営学科 教授）

全英連滋賀大会 実行委員会
副委員長

高原 透 先生
（大津市立南郷小学校長）

全英連滋賀大会 実行委員会
事務局長補佐

小梶 清嗣 先生
（滋賀県立彦根東高等学校）



「第6回全道高等学校英語プレゼンテーションコンテスト」 39チームが参加し、熱戦が繰り広げられる

北海道高等学校文化連盟国際交流専門部は、日頃の英語の授業を生かした、生徒のコミュニケーション活動の切磋琢磨の機会として、英語プレゼンテーションコンテストや英語ディベート学習会、英語弁論大会（スピーチの部、ディベートの部）を毎年開催している。今年5月20日には、北星学園大学（北海道札幌市）にて、「第6回全道高等学校英語プレゼンテーションコンテスト」が開催された。全道より39チーム（27校272名）が出場し、午前中からの予選を勝ち抜いた6チームが決勝に駒を進め、熱戦の末、北海道札幌国際情報高等学校のSIT Team Tが優勝に輝いた。当日の様子をレポートする。

現状分析に基づいた

北海道らしさを生かした提案

今回のテーマは、「北海道がより多くの外貨を獲得する商品を開発、または紹介するための提案（A proposal for developing or promoting a commercial product which brings more foreign money to Hokkaido.）」だった。「商品」には、旅行商品・金融商品等の「サービス商品」は含まず、市場状況・戦略、開発計画、生産・販売計画などについて、生徒自身がリサーチを行い、実際のデータや現地での取材、インタビューなどに基づいたプレゼンテーションを行う。また、提案に関する広告や広報の具体的な手法、コストの算出、

商品の価格設定についても触れることとしている。提案は、外国人観光客を対象とするのではなく、道内の事業者に向けた内容とすることが決められている。

出場にあたり、チーム構成は1チーム3～9名とし、機器操作だけを担当する生徒以外は全員が必ず発話の機会を設けることが条件付けられている。制限時間は7分間で、英語を使用して発表するが、その発表方法は自由とされる。プレゼンテーションソフトを使用して作成したスライドをはじめ、実演や紙芝居、ポスターなどの使用も認められている。なお、発表後には、質問者との質疑応答があり、その内容も審査対象とされる。質疑応答では、英語を母語とする生徒や

英語を第一言語とする国で12カ月以上の滞在経験がある生徒の応答が認められておらず、発表だけでない即興での応答の力も問われる。

毎回、趣向を凝らした発表が行われるが、出場チームの生徒たちは、前年の上位入賞チームの発表を参考にしながら発表内容をまとめ、練習を重ねて当日に臨んでいるという。

今回の参加校は下記の通りだった。常連校もあれば、初参加の学校もあり、生徒たちは、日頃の授業や部活動などで培った英語コミュニケーション能力を大いに発揮していた。

北海道旭川永嶺高等学校／北海道旭川北高等学校／北海道旭川西高等学校／北海道旭川東高等学校／北海道厚岸翔洋高等学校／北海道網走南ヶ丘高等学校／市立札幌旭丘高等学校／市立札幌清田高等学校／市立札幌啓北商業高等学校／北海道帯広柏葉高等学校／海星学院高等学校／北海道札幌国際情報高等学校／北海道札幌月寒高等学校／北海道札幌手稲高等学校／札幌日本大学高等学校／北海道札幌南高等学校／北海道鹿追高等学校／北海道標茶高等学校／北海道滝川西高等学校／北海道千歳高等学校／北海道中標津高等学校／北海道登別明日中等教育学校／北海道函館中部高等学校／北星学園大学附属高等学校／北海学園札幌高等学校／北海道室蘭清水丘高等学校／立命館慶祥高等学校（以上27校）



予選を経て決勝へ6チームが進出

コンテスト当日は、開会式のあとすぐに予選が始まった。参加チームが39と多いため、A、B、Cの3つのリーグに分かれて予選が行われた。午前中は各リーグとも9チームが順番に発表した。「北海道のきれいな水を海外の和食レストランへ輸出する」「北海道米の消費量拡大をねらったおにぎりの提案」「家具製作の際に出る木の端材にアイヌ文様をデザインして販売する」「北海道の食材を使ったカレーパンを販売する」「北海道らしさを生かした石鯰を開発する」「農林業被害をもたらすエゾシカを具材としたクリームシチューを販売する」などといった提案が次々と発表されていく。商品の広告手段としては、InstagramやFacebookなどのSNSを活用して拡

散するといった、若い世代や海外を意識した提案が多かった。十分に練られた企画提案ながらも、質疑応答で回答に窮してしまったり、緊張して言葉に詰まったりといった生徒もなかにはいたが、多くの生徒は、自信をもって堂々と発表し、応答していた。

昼食休憩を挟んで、午後には予選の続きが行われ、全てのチームが発表を終えると、全員が一堂に会して、審査委員長を務める立教大学経営学部国際経営学科の松本茂教授より、どのチームも接戦で審査は難航したことが告げられ、緊張感の高まるなか、決勝に進出する6チームが発表された。会場ではうれし涙や悔し涙を流す悲喜こもごもの生徒の様子が見られ、生徒たちがコンテストをめざして、どれだけ準備に時間をかけて取り組

んでいたか、その熱意が感じ取れた。決勝には次のチームが駒を進めた。

北海道旭川東高等学校
Team Higa6

市立札幌啓北商業高等学校
Mercuries

北海道札幌国際情報高等学校
SIT Team T

北海道函館中部高等学校
KANCHU ESS TEAM A

北星学園大学附属高等学校
Team Star

北海学園札幌高等学校
HGS – Group A



審査委員長より決勝に進出するチームが発表され、喜びの笑顔が浮かべる生徒や悔しそうな表情で涙を流す生徒の姿が見られた。





北海学園札幌高等学校 HGS - Group A 「Treasures of Hokkaido」

メンバーは3年生3名と2年生4名の計7名。北海道では多くの農作物が作られていることから、北海道民のソウルフードであるラーメンの具材に、北海道産の野菜を使って、インスタントラーメンを開発することを提案した。商品名は「いい野菜、北海道!」だ。主要農産物であるトマト、タマネギ、ニンジン、トウモロコシ、ユリ根、アスパラガスを具材とし、麺には北海道産の新種の小麦きたほなみを使用する。また、スープには、がごめ昆布の出汁を使用し、醤油味と味噌味、塩味の3種を用意すると説明した。これらの商品は道の駅やコンビニエンスストアのほか、海外からの観光客が多く利用する空港でも販売する。原価は150円、売値は300円に設定し、和風のパッケージを施すことで、海外、特に近年増加しているインドネシアから来道する観光客をターゲットとし、Instagramを活用してプロモーションをすることも紹介した。



北海道札幌国際情報高等学校 SIT Team T 「NEW MATE, Soymite」

2年生8名で構成されるチーム。オーストラリアのソウルフードである「VEGEMITE」にならって、北海道の名産である大豆を原料とする「おから」を有効利用して「SOYMITE」を開発することを提案した。北海道のニセコにはオーストラリアから多くの観光客が訪れていること、年間55,000tのおからが廃棄され、その費用に1,100万円がかかっているという現状を紹介。おからの栄養価の高さに注目し、海外でも好まれているテリヤキ味の商品を開発するとし、実物を食パンに塗って食べてみせた。商品はニセコの街中へ看板を出したり、スキー場の Gondola 内にロゴマークを掲出したりするほか、口コミでの拡散を考えている。また、ニセコのスキー場内のレストランやコンビニエンスストアで土産物として販売する。このSOYMITEの開発により、廃棄物から利益を生み、安価なコストで高い効果が生まれるとの提案だった。



北海道函館中部高等学校 KANCHU ESS TEAM A 「Treasures of Hokkaido」

2年生6名と1年生1名の7名によるチーム。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに際して、海外からの観光客が増加することが見込まれるなか、北海道観光客に向けて、アイヌ文様をあしらった商品「AINU IKOR」を開発する。洋服や靴、バッグ、アクセサリなどの商品に、アイヌの6つの神を意味する色と伝統的な文様をあしらう。商品の生産にあたっては、独自の会社を立ち上げ、北海道内におけるアイヌ民族の失業者の雇用を促進する。商品は新千歳空港をはじめとする道内の空港、土産店や道の駅などで販売する。商品やアイヌの歴史等を紹介するウェブサイトを開示するほか、海外からの観光客向けのプラットフォームサイト『TOKYO-NARITA JAPAN EXPLORER』にも情報を掲載し、世界に向けて発信する。



市立札幌啓北商業高等学校 Mercuries 「Unique Soap」

3年生1名と2年生8名の9名によるチーム。北海道での観光を思い出してもらえそうな、北海道らしい石鹸「Our Awa」を開発する。日本に数多く訪れる観光客のうち、アジア、なかでも中国や台湾、香港からの観光客がよく購入する化粧品に注目した。北海道原産の植物による香りと色で、液体でも固体でもない新しい感覚のゼリー状の石鹸を開発する。パッケージにもこだわり、北海道をイメージさせる雪の結晶のデザインを取り入れるほか、石鹸ホルダーやエアフレッシュナーなどの商品も同時に開発する。商品は新千歳空港内の温泉に自動販売機を設置して販売する。SNSによって商品を使ったビデオコンテストを開催することで、より多くの人に商品を広めていくことも企画した。なお、商品は1箱6個入り1,700円で販売し、生産コスト935円を引いた、765円が利益になることも算出している。



北星学園大学附属高等学校 Team Star 「Hokkaido makes us beautiful」

3年生3名、2年生2名、1年生1名の混合チーム。北海道を訪れる観光客の40%が温泉を訪れている現状に着目し、ビジネスチャンスは、石鹸の開発にあると想定した。アジア（韓国、台湾、中国、タイ）からの観光客の多くが日本の高品質の化粧品を購入していることから、中国と台湾の30〜40代を対象とした商品開発をする。商品名は「Re湯se (reuse)」とし、エゾシカの角から取れた油を原材料とし、牛乳とラベンダー、ブドウの皮とミント、小豆とクマザサを組み合わせた3種類の石鹸を作る。それぞれの販売価格と利益を提示し、1日あたり120個を販売した場合の年間の利益は、3,416万4,000円になると示した。また生産にあたっては、高齢者や障害者、失業者を雇用することで、雇用促進につなげるとも提案した。



北海道旭川東高等学校 Team Higa6 「trEAT」

2年生6名によるチーム。北海道には美味しい食べ物がたくさんあり、上川地区の米、牛乳など9種類の農産物を原材料に使った「GOCHI-SOAP」を、天然素材の商品開発をしている旭川の美容サロン MARVELOUS と共同開発する。商品名は「ごちそうさま=おいしい食事をありがとう」の言葉に由来し、毎日、「ごちそうさま」と感謝する気持ちで石鹸を使ってほしいとの願いを込めた。まずは、北海道に自生するハマナスやユリ根を主原料として、2種類の「GOCHI-SOAP」をそれぞれ1,600円で販売し、販売については、アメリカやカナダの姉妹都市での展示会に出展し、直接販売をすることで、口コミで広がっていくことに期待をしている。また、多言語サイトを用意して販売するほか、SNSも活用して情報を拡散する。地元企業との連携によって、自分自身も地元の良さを再発見しようというプロジェクトだ。

内容に深みがあり、 データ分析もできていた

審査には、英語教育の専門家や旅行会社の関係者などがあたり、英語運用能力や提案の構成をはじめ、市場分析や販売計画の完成度の高さ、チームワークなど8つの基準に沿って採点した。決勝に進出した6チームの発表が終わり、表彰式に移ると、会場内は結果発表を待つ生徒たちの熱気にあふれた。

登壇した審査委員長の松本茂教授は「どのチームのプレゼンテーションも素晴らしい、甲乙つけがたいものでした。内

容には深みがあり、データに基づいた分析もできていました。事業計画は創造的であったが、外貨を獲得するための提案として、誰に向けた提案なのか、なぜそのように考えたのかといった視点が少し欠落している提案もありました。また、プレゼンテーションとスピーチの大きな違いは、いかに皆さんの提案を聴衆に効果的に伝えるかということにあります。高校生としての英語力は素晴らしく高いので、自信をもって、次回からもがんばってください」と英語で講評した。

まず奨励賞3チームが発表された。

北海道旭川東高等学校 East High MONKEYS の「CG」Project と、北海学園札幌高等学校 HGS - Group B の「Nutrition that modern people require」、北海道旭川西高等学校 Beckoning Curry Bread の「Curry Bread for People All Over the World」だった。これらのチームは決勝には進出していないが、予選での健闘がたたえられた。

そして、決勝の結果が発表されると、会場は割れんばかりの拍手が巻き起こり、コンテストは幕を閉じた。

第6回全道高等学校英語プレゼンテーションコンテスト 決勝結果

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 優勝 | 北海道札幌国際情報高等学校 SIT Team T |
| 準優勝 | 北海学園札幌高等学校 HGS - Group A |
| 3位 | 市立札幌啓北商業高等学校 Mercuries |
| 3位 | 北海道函館中部高等学校 KANCHU ESS TEAM A |
| 5位 | 北星学園大学附属高等学校 Team Star |
| 6位 | 北海道旭川東高等学校 Team Higa6 |

優勝校の プレゼンの 様子はこちら

北海道札幌国際情報高等学校 SIT Team T
「NEW MATE, Soymite」



【前半】



【後半】



Reader's Voice

『英語情報 2018 冬号』について、読者の皆様から編集部へお寄せいただいた声をご紹介します。



群馬県・小学校教諭

小学校での英語教育の始まりは、前途不明の現場ではないでしょうか。
特に授業に不安のあるなかで、評価に至っては、

どこまでが評価に値する根拠をもった評価となるか、
特集記事や**連載記事**を参考にしたいです。

埼玉県・小学校教諭

「安河内哲也先生が聞く 英語で授業7つの鉄則」は、
取り入れるべき重要なことが具体的で簡潔にまとめられ、
分かりやすく実践したいと思わされる内容でした。

神奈川県・小学校教諭・外国語活動担当

「安河内哲也先生が聞く 英語で授業7つの鉄則」の記事が興味深かったです。
小中連携を視野に入れ、帯活動での活動や「話すこと」の雰囲気づくりを、
小学校でも実践していく必要性を感じました。

広島県・小学校長

特集記事では、**学習評価について、語句の説明もあり大変分かりやすかった**です。
また、授業の実践事例記事と動画は、
授業の基本的な流れが明示されたうえで、留意点としての鉄則が書かれており、
初心者でも授業ができそうな気持ちになれます。

静岡県・特別支援学校教諭

小学校で外国語活動が3、4年生に前倒し、5、6年生で外国語の導入がされるにあたり、
ほとんどの小学校教諭が大学の教職課程で、英語科を履習しておらず、
不安の声が多く上がっています。

今後の**研修のモチ方や実践例、**
つまずきへの支援などについての特集があるとありがたいです。

長野県・中学校教諭・英語科主任

英語の授業改善や小学校の外国語活動に変化がある一方、
評価がきちんとされていないことが多いと思いました。

評価と指導が一体になることで**学習者の学びが向上する**と思い、
とても興味深く読みました。

福島県・中学校教諭

新学習指導要領における学習評価のあり方について、
本校での見直しが必要だったので、特集記事がとても興味深かったです。

群馬県・中学校教諭

「安河内哲也先生が聞く 英語で授業7つの鉄則」を読み、生徒たちが楽しく表現活動をするためには
どうしたらよいか、教師が説明を多くせず、内容をつかませるにはどうするかなど、明日からの授業で取り入れられ、
これまで課題にしていたことに向き合えると思いました。

大阪府・高等学校教諭

子供たちは英語の必要性を強く感じていて、「上達したい」「話せるようになりたい」と思っているのに、
なぜ英語が好きではないのか。
また、学年が上がるごとにその傾向が強くなるので、**自発的に生徒が学んでくれるようになる**には、
どうしたらよいのかを知りたいです。

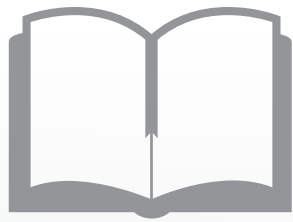
北海道・高等学校教諭

どうしても文法訳読中心の授業になりがちなか、
授業の実践事例記事と動画や7つの鉄則の記事と動画から、
具体的にどのような方策が必要となるのかという
ヒントをいただきました。

宮城県・高等学校教諭

小・中・高・大の連携を実現させたい、と思いつつも、
なかなか踏み出せておりません。
もし、実践例を紹介していただけると大変参考になります。

『英語情報』では今後も、読者の皆様の授業改善や入試への取り組みなどにお役に立てる情報を随時発信してまいります。
記事へのご要望をどしどし編集部へお寄せください。お待ちしております。



『英語情報』オススメ本

英語教育に携わる皆さんにオススメの書籍をご紹介します。

今回は、小学校英語や子供との親和関係の構築に役立つ書籍2冊をご紹介します。

現場での実践に基づいた事例や、教室づくりの本質に迫る内容です。

1 『自分の本当の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業—使いながら身に付ける英語教育の実現—』

山田 誠志（編著）
日本標準 定価2,592円（税込） 2018年3月発行



「暗記・発表する授業」から「思考・判断して表現する授業」へ。本書では、「考えながら話す」英語授業の重要性が分かり、岐阜市立長良東小学校の事例を中心に、岐阜県内の英語拠点校となった小学校での実際の授業や、小学校における具体的な評価の方法も示しています。編著者の山田誠志氏は、執筆当時は岐阜県教育委員会学校支援課の指導主事でしたが、2018年度より、文部科学省初等中等教育局教育課程課・国際教育課の教科調査官の職に就いています。本書は、中学校、高等学校へとつながる新たな小学校英語教育のあり方を提案する書籍です。小学校の先生方はもちろん、中学校や高等学校の先生方にもぜひ手に取っていただきたい1冊です。

2 『教室はまちがうところだ』

蒔田 晋治（著）／長谷川 知子（絵）
子どもの未来社 定価1,620円（税込） 2004年4月発行



子供だけではなく、英語の先生方にもおすすしたいベストセラー絵本です。全国の小学校で愛され続けてきた詩が、素敵な絵本になりました。みんなの前で手を挙げて発表するときのドキドキする気持ちは、だれもが経験しているはずです。作者は静岡県で小中学校の教師を50年間務めた経験に基づき、子供たちに向かって「まちがえることをおそれちゃいけない」と励まし、まちがうなかで「ほんとのものを見つけていくのだ」「そうしてみんなで伸びていくのだ」と語り掛けます。子供たちとの親和関係づくりが大切だと言われる英語の授業にも役立つ温かみにあふれた1冊です。

Present!

本コーナーでご紹介した書籍を読者の皆様へプレゼントいたします。

ご希望の書籍の番号と下記の必要事項をご記入のうえ、P.55のFAX申込用紙またはEメールにて、『英語情報』編集部までご応募ください。

- ① 氏名 ② 所属（勤務校名）・役職 ③ 連絡先（住所、電話番号、メールアドレス） ④ ご希望の書籍番号
⑤ 今号で興味深かった記事とその理由 ⑥ 今後、本誌で取り上げてほしい内容や意見

抽選で各1名様にご希望の書籍を差し上げます。皆様からのご応募をお待ちしております。

応募締切 **2018年10月14日（日）** 応募方法 03-5439-6879 eigojoho@morecolor.com

※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。応募時に記載していただいた個人情報 は、本件以外の目的には使用いたしません。

『英語情報』オススメ本プレゼント

FAX申込用紙

プレゼント申込専用FAX番号
『英語情報』編集部宛



03-5439-6879

P.54でご紹介した書籍のうち、ご希望の書籍の番号に○をして、下記の必要事項をご記入のうえ、FAXにて、『英語情報』編集部までご応募ください。

ご希望の書籍のいずれかに○印をご記入ください。

1 『自分の本当の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業—使いながら身に付ける英語教育の実現—』	2 『教室はまちがうところだ』
--	------------------------

氏名	(氏)フリガナ	(名)フリガナ
	様	
所属	勤務校名	役職
連絡先	住所 -	
	都 道 府 県	
	電話番号	

※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。応募時に記載していただいた個人情報は、本件以外の目的には使用いたしません。

1. 『英語情報 夏号』で興味深かった記事は何ですか？ 該当するものの番号に○をつけてください。（複数回答可）

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1. NEWS&TOPICS | 9. 英検ライティングテストを活用した発信力の育成 |
| 2. 特集「どう変わる？ 小学校英語」 | 10. 安河内先生×TEAPで合格を手にした大学生座談会 |
| 3. 特集事例 CLASS REPORT | 11. 英語教育セミナー in 東京2018 |
| 4. 高大接続改革ニュース | 12. 英検成績優秀者・優秀団体表彰式 |
| 5. 授業改善と評価のあり方 | 13. 全英連滋賀大会に向けて |
| 6. 授業で使える「評価」のためのアイデア | 14. わが町の英語教育事情 北海道 |
| 7. 英語で授業7つの鉄則 | 15. 英語情報 Reader's Voice |
| 8. 新学習指導要領に向けて（小・中・高） | 16. 『英語情報』オススメ本 |

2. 上記の記事が興味深かった理由がありましたら、記事の番号とともにご記入ください。

3. 今後、本誌で取り上げてほしい内容やご意見がございましたらご自由にお書きください。

編集後記

今号は、「どう変わる？ 小学校英語 新学習指導要領がめざす教育」をテーマに特集を組みました。社会構造が変化するなかで求められる資質・能力も変化しています。新たな時代を生き抜くために、子供たちは身に付けていくべき力を養うこと、それが新学習指導要領のめざす教育であると言えるでしょう。各地では、新学習指導要領を見据えて、児童生徒の言語活動中心の授業が展開されています。今号でもそのような実践事例を取材し、動画とともにお伝えしていますので、授業づくりのご参考にいただければ幸いです。また、大学入試における外部資格・検定試験の活用が広がるなか、2020年度からの大学入試改革において、実用英語技能検定（英検）がどのように利用できるのかといったお問い合わせを多くいただいております。従来より皆様にご利用いただいている英検に加え、新しく導入する3つの実施方式について、本誌P.16～19にて解説し、ウェブサイトでも情報を公開いたしました。ぜひご覧ください。

『英語情報』編集部一同

英語情報 2018 夏号

2018年7月15日発行

発行 公益財団法人 日本英語検定協会
総務部 総務課
〒162-8055
東京都新宿区横寺町55

編集統括 株式会社モアカラー
アートディレクション・制作 株式会社モアカラー
印刷 日新印刷株式会社
製本 有限会社穴口製本所

©無断転載、複製を禁じます。

©2018 公益財団法人 日本英語検定協会

英検試験問題と解答のウェブサイト公開のご案内

公益財団法人 日本英語検定協会は、より広範な情報公開と、サービスの質的向上を図るべく、一次試験問題を英検ウェブサイトにて公開するサービスを行っております。**一次試験日から約1週間後に問題を提供いたします。**英検ウェブサイトのURLは、下記の通りです。

英検試験問題 <http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/>

一次試験の「解答速報」は、毎回一次試験日の翌月曜日13時以降に英検ウェブサイトにて公開いたします。

英検解答速報 <http://www.eiken.or.jp/eiken/result/>

本誌について

お問い合わせ先 英検サービスセンター TEL 03-3266-8311

本誌は以下、英検ウェブサイトよりPDFにてダウンロードしていただくことが可能です。
<http://www.eiken.or.jp/eiken/group/>

お問い合わせ電話案内

電話番号はお間違えのないようお願いいたします。

● 英検申込受付に関すること (出願、検定料など)	英検サービスセンター	(個人)	03-3266-8311
● 英検受験に関すること (受験票、会場、合格通知など)		(団体)	03-3266-6581
● 英検 Jr. に関すること	英検サービスセンター	----	(英検 Jr.) 03-3266-6463
● 研究助成に関すること	英語教育研究センター	-----	03-3266-6706
● BULATS に関すること	BULATS 事務局	-----	03-3266-6366
● IELTS に関すること	IELTS 事務局	-----	03-3266-6852
● TEAP に関すること	TEAP 運営事務局	-----	03-3266-6556
● 英検留学に関すること	英検留学情報センター	-----	03-3266-6839
● 通信講座に関すること	通信教育課	-----	03-3266-6521
● その他のお問い合わせ	英検サービスセンター	-----	03-3266-8311

※全国の英語教育に関する研究会、セミナーなどのウェブへの情報掲載については、英検のウェブサイトのフォームよりお申し込みください。

2018年度 実用英語技能検定 試験日程

第1回検定	第2回検定	第3回検定
申込受付 3/9金～5/11金 協会必着 【書店締切：2/7月】 一次試験 (筆記・リスニング) 6/3日 準会場 6/2日・3日 中学・高校のみ 6/1日 二次試験 (面接形式のスピーキング) A日程 7/1日 B日程 7/8日	申込受付 8/1水～9/14金 協会必着 【書店締切：9/7金】 一次試験 (筆記・リスニング) 10/7日 準会場 10/6日・7日 すべての団体 中学・高校のみ 10/5日 二次試験 (面接形式のスピーキング) A日程 11/4日 B日程 11/11日	申込受付 11/30金～12/26水 協会必着 【書店締切：12/19水】 一次試験 (筆記・リスニング) 2019/1/27日 準会場 1/26日・27日 すべての団体 中学・高校のみ 1/25日 二次試験 (面接形式のスピーキング) 2019 A日程 2/24日 B日程 3/3日

※4級・5級のスピーキングテストの受験日はお申し込みいただいた各回次の一次試験合格者から受験が可能です。各回次の二次試験日(1級～3級)から約1年間ご受験いただけます。
詳しくは英検ウェブサイト内4級・5級スピーキングテスト特設サイト(<http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/4s5s/>)をご覧ください。

TEAP利用で、
入試が変わるTEAPを受験して
合格に近づこう！

高校2年生
以上対象

受験のチャンスは
年3回

複数学科の
出願に利用可能

※出願基準点等の条件は
各大学にお問い合わせ
ください。

TEAPを利用した入試とは

アカデミック英語能力判定試験 (TEAP) を受験し、各大学で設定しているTEAPの出願基準点を事前にクリアしていれば、各大学がそれぞれ実施する英語の試験は受けなくてもよいというものです。

「大学教育レベルにふさわしい英語力」を
正確に測定するアカデミック英語能力判定試験

TEAP
Test of English for Academic Purposes

2018年度 試験日程・申込期間

第1回	第2回	第3回
7月 受付終了 実施 5月14日～6月28日 ※	9月16日 実施 申込期間 7月9日～8月16日 ※	11月18日 実施 申込期間 9月10日～10月25日 ※

※コンビニ・郵便局ATM支払による申込は、試験申込締切日より約10日前に締切ります。ご注意ください。詳しくはTEAPウェブサイトへ。

グローバル×IT社会を牽引する
思考力・判断力・表現力をリアルに測定する
英語4技能を超えたテスト

TEAP CBT

2018年度 試験日程・申込期間

第1回	第2回	第3回
6月 受付終了 実施 4月16日～5月24日 ※	9月2日 実施 申込期間 6月25日～8月9日 ※	10月21日 実施 申込期間 8月13日～9月27日 ※

※コンビニ・郵便局ATM支払による申込は、試験申込締切日より約1週間前に締切ります。ご注意ください。詳しくはTEAP CBTウェブサイトへ。

お問い合わせ

公益財団法人 日本英語検定協会 英検サービスセンター TEAP運営事務局
TEL. 03-3266-6556 ※平日9:30～17:00 (土・日・祝日を除く)

詳細・サンプル問題はこちらから

<http://www.eiken.or.jp/teap/>



公益財団法人
日本英語検定協会
Eiken Foundation of Japan